



絆 ～きずな～

vol.2

平成20年10月発行



●「行って来ます」

毎日、元気よく出かける息子を見て、幸福だなと思う。初めての事は、不安で心配ばかりしている息子だが、親の心配をよそに、毎日勉強に部活に、慌ただしく動いている。

参観日、教室をのぞくと、目を合わせてはそらす息子を発見。自分の意見を言っている。中学生になると、こんなに成長するものなのかと思うほど、授業を楽しんでいるのが伝わってきた。そういえば、中学生になってから、学校での出来事、友達の事、部活の事、こちらから聞かなくても次から次へと話してくれるようになった。毎日、新鮮で刺激があって楽しい中学校生活を送っていると実感した。

疲れきって思うように勉強ができない時もあるけれど、一生懸命の息子をみて、これからも陰ながら応援していこうと思う。この4ヵ月で一回りも二回りも、たくましくなった。恵まれた環境の中で、たくさんの思い出を作ってほしいと思う。



●県立川島中への進学は、本人の強い希望によるものでした。家族は、学習面や人間関係で負担はないかと心配していたのですが、結局は、本人の意志を尊重し支えていくことにしました。一番不安だったのは、自転車での通学です。中1生にとって、はじめての自転車通学で5kmを超える距離を通うとなると、体力面でも安全面でも問題があると感じたからです。しかし、家族の心配をよそに、朝日を背に受け毎日元気にペダルをこいで出掛けていきます。学校に着く頃には汗びっしょりになっているそうですが、友だちと挨拶を交わし快適な教室に入ると汗もスッとひくといっているようです。また、部活動もはじめました。初心者ですが先輩方によくしていただき、熱心に練習に励んでいるようです。

長い6年間の最初の一步を踏み出したばかりで、これからの川島での学校生活がどのようなものになるのか想像もつきませんが、希望にあふれた気持ちのいいスタートをきることができたことを先生方はじめ関係の方々に感謝しながらうれしく思っています。



●今年の春、子供が川島中学校に入学し、毎日学校で起こった出来事を楽しそうに報告してくれます。私の目から見ても県立川島中学は、生徒間の仲が良く、中高一貫教育で受験を気にせず部活動に勉強に打ち込めるという事で素晴らしい学校だと思っています。また、川島中学の教育体制「生徒一人ひとりの興味・関心・進路希望に柔軟に対応し、個々の自己実現を最大限に支援する」こともまた魅力の一つだと思います。娘はそんなに勉強は好きな方ではないのですが、最近数学がわかるようになったと喜んでおります。これも川島中の先生方の熱心な指導のおかげです。これからも立派な教育体制のもと、がんばって欲しいと思います。

期待しています。

●小学校で将棋クラブに入っていた息子は、去年の徳島県小中学生将棋大会に参加しました。中学生の方に目をやると、数人の制服姿の生徒が対局しています。それはとてもすがすがしい、清潔感あふれる、それでいて堅実な感じのする制服です。どこの中学かしらと尋ねてみたら「県立川島中学です。」と、これまた爽やかな返事が返ってきました。この日から私達親子は県立川島中が気になって、とうとう受験することにしました。

入学して、早速将棋部に行くと、先輩達が優しく迎えてくれ、司級生も何人か入部し、日々、将棋ができる喜びを味わっています。

「類は友を呼ぶ」と言いますが、将棋部の仲間は、よく似た感じの子が集まっており、和気あいあいとしています。6年間という長い付き合いのできる学校で、これからも仲良く、切磋琢磨して行ってほしいと思います。



●公開授業を見学。二人の先生が、パソコンやプロジェクタを駆使しながら進める数学。それはパズルの解き方を探るような、勉強でありながらも楽しそうな時間でした。生徒さんたちも皆、生き生きとした表情で積極的に授業に参加している姿が印象的で「息子にもこの環境が与えられたら…」と強く思いました。息子も

「僕もこの中学校で勉強したい。」とその場で言ったほどでした。

その帰り、ふと中庭に目をやると、夏野菜が青々と葉を茂らせていました。抜かれたりいたずらされることもなく、のびのびと育っているそれらの野菜が子供達一人ひとりのようでもありました。

この夏、先輩たちの後を引き継ぎ、息子はその中庭でプチトマトを育てています。すばらしい先生方や級友、先輩方に恵まれ、この川島中学校で息子はたくましく成長していくことでしょう。真っ赤に熟したトマトのように。



子供のためにできること

徳島県立川島中学校PTA会長 徳山 博文

平成20年度になり県立川島中学校は1年生から3年生まで全学年がそろい、子供たちは中高一貫校の生徒として充実した学校生活を送っていると思います。

クラブ活動では上級生が下級生の面倒を見るようになり、小学校とは違う組織の中で自分の存在を確認し、ひとりひとりが成長しています。また、3年生は受験によるクラブ活動の中断がなく好きなクラブ活動を続けています。

学習面では、他校とは異なり中学生の最大の試験である高校受験がないため、受験勉強のための学習にとらわれることなく、中高一貫校として、県立川島中学校独自の学習計画で各教科の成果をのびし、いきいきと学習に励んでいます。これが中高一貫校の最もよい所ではないでしょうか。

先日、参観日に学校に行った時のことですが、中学生だけではなく高校生からも「こんにちは」の挨拶があり、快く校舎に入りました。

建物は木のぬくもりがあり明るく、子供たちはきれいな教室で心地よさそうに授業を受けていました。その授業風景を見て、環境のよい学校で勉強していることに満足して帰ってきました。まだ参観日に来られてない方は、ぜひ子供たちの授業を受けている姿や、ぬくもりのある校舎を見に来てください。

一方、世間では子供を取り巻く環境は必ずしもよいとはいえない状態です。凶悪犯罪の低年齢化や家族間での傷害事件など、私たちが子供の頃にはなかった事件が多発しています。

今、保護者のひとりとして子供に願うことは、「幸せになってほしい」ということです。そして、そのために何をすればよいかを考えるようになりました。私たちが子供のためにできることは、今日まで経験してきたことで、よかったと思うこと、正しいこと、いつまでも心に残っていることを子供に伝えることではないでしょうか。子供と一緒にいる時間は限られています。だから、今、一家団らんの時間を作ることが大切だと感じています。

先日、新聞の記事に、不登校のことが載っていました。徳島県の中学校では、32人に1人が不登校の状況になっています。その原因は1番が学校生活、次いで本人にかかわる問題・家庭生活と続いています。学年では、中学1年生が最も多く、原因は人間関係を築けないことだそうです。これまで育ってきた家庭環境や学校生活は、非常に重要な要因になっています。

しかし、これから変えることは十分できるのです。不登校をなくすために家庭でできることは、一番身近にいる子供に暖かく接し、優しく見守ることが大切ではないでしょうか。自分たちの子供をよくすることは、家庭をよくし、クラス全体をよくし、川島中学校・川島高校をよい学校にしていこう。自分の子供が通っている学校がよい評価になれば、保護者も気持ちがよいものです。

私たち保護者も何かできることをしませんか？そこで、保護者の方々にも気軽にPTA活動に参加していただきたいと思います。PTAの活動に参加することにより、子供と共通の話題ができ、新しい出会いや発見が生まれてくると思います。





家庭教育委員の活動について

川島中・高祭での活動が中心になります。

文化祭では、焼きそば、フライドポテトとフランクフルトを販売しました。合同での文化祭なので、中・高の役員さんが一緒に活動します。男性4人を含む約20人の役員さんが集まり、焼きそばを焼く人、フランクフルトを焼く人とフライドポテトをあげる人と、大きな声で販売する人などみんな役割分担して、手際よく出来たと思います。又、中・高生とPTAが楽しいふれあいも出来ました。

翌日の体育祭では、アイスボックスを販売しました。中・高生を見ながらの販売だったので、リレー、応援合戦、フォークダンス、3人4脚やむかで競走など一生懸命に頑張っている競技の応援もできました。

最後に、文化祭でコーラス部として2曲歌いました。平成15年度から活動しています。歌に興味のある保護者の方が10人以上集まり練習をしています。皆さんの参加を歓迎します。

研修親睦委員の活動について

大学訪問に参加して（京都大学）

8月21日、京都大学訪問の研修に学校の先生方や保護者の方々、中学生（20名）、総勢51名で参加してきました。今はまだ先のことと大学受験については、実感がありませんが、中学の時からこのような素晴らしい機会があることに感謝し、実際にその場へ行き、何かを感じ取ってくればとかすかな期待も持って息子と一緒に参加しました。

京大に着き、正門前で記念撮影。全員が並んだ後ろには、京大のシンボルである大きな楠と時計台が堂々と立ち、歴史ある大学のすばらしさを感じました。子供たちが大学院生の案内で校内を見学している間、私たちは今日の記念にとそれぞれに京大グッズをいくつか購入しました。中でも、わかりやすい絵が入った元素周期表やヒトゲノムマップにひかれ、私自身、内容はほとんどわからないのに京大の雰囲気のにめれたのが買ってしまいました。その後、時間がかなりたっていることに気づき、あわてて校内の散策に向かいました。ごく一部しか見学はできませんでしたが、京大のスケールの大きさや自由な学風、そして、落ち着いた環境の中で学問に集中できるすばらしさを感じました。

その後、京都ホテル17階の展望レストランでの昼食。おいしい料理をいただきながら親睦を深めることができ、とても楽しいひとときでした。京都駅周辺での自由時間もあり、とても充実した一日を過ごすことができました。お世話してくださった先生方や役員の方々、子供たちを案内してくださった大学院の方、ほんとうにありがとうございました。



人権教育委員の活動について

昨年度、人権委員会の活動としては、吉野川市PTA連合会主催による「人権の集い」への参加と、美郷中学校を最後に教職を去られた松村勝子先生による人権講演会の開催がありました。

「人権の集い」では、各ブロックが合唱して、歌詞の背景にある人権の大切さをそれぞれ発表しました。

私たちの第3ブロックでは、“千の風になって”と“アンパンマンのテーマ”を発表曲に選びました。

“アンパンマンのテーマ”の歌詞の
 『なにが君の幸せ、なにをして喜ぶ
 わからないまま終わる、そんなのはいやだ
 忘れないで夢を、こぼさないで涙
 だから君は飛ぶんだどこまでも
 そうだ恐れないでみんなのために
 愛と勇気だけが友達さ』

自分自身にとって、心に深く刻みこまれる詩となりました。2曲とも、人間にとって、一番大切な事は何かを問いかける歌詞でした。

松村先生の、人権教育（同和問題）講演では、人間は幸福になる権利がある、人間として生きる力は豊かな人間関係を築く事だ、ということを学びました。

今後私たちPTA会員も、今よりもっともっと人間関係を深めていければと思います。

生徒感想文より

●海外語学研修

人生初の海外、人生初のホームステイ。私は、期待と不安でいっぱい気持ちでオーストラリアへ飛びたちました。出発前は、本当に嫌でした。あいまいな英語しか喋れないのに、海外へ出て、一人で外国の家庭で、自分はやっていけるのか本当に不安でした。でも、着いた時は、わくわくする気持ちでいっぱいでした。いよいよホストファミリーと対面するときは、どんな人たちなんだろうと、とてもドキドキしていました。でも、ホストファミリーは、笑顔で私をむかえてくれて、ホストマザーは会った時、英語をゆっくり話してくれて、私も安心できました。

それから、初めてのホームステイが始まりました。最初の1週間は、毎日が不安の日々でした。間違いを恐れて、積極的に話せなかったり、言いたい事を伝えられなかったり、向こうの言っている事が理解できなかったりで、もう嫌になる程、日本へ帰りたいと思っていました。でも、後の1週間は、私にとって充実した毎日を送る事ができました。ホームステイ生活にも慣れ、間違いを恐れず、自分から話す事ができ、自分の意見を言えるようにまくなりました。家族との会話も弾み、本当の家族のように、なじむことができました。

別れの日は、帰りたいと思っていた時がうそのように、今までお世話になったホストファミリーと最後の別れをする時は、涙が出そうになりました。

私はこの語学研修プログラムに参加して、いろんな事を学びました。つらい思いもたくさんしたけど、このプログラムに参加して、本当に良かったです。出発前と帰国後の自分を比べてみると、大きく成長した部分もあったと思います。私が今回一番多く学んだ事は、「経験」の大切さです。今回、海外語学研修を経験し成長したように、これからもいろんな経験を大切にしていきたいと思います。



●大学訪問

京都大学を訪問して、自分の大学に対するイメージが根本から覆われてしまった。元々僕のイメージとしては、ノーベル賞受賞者が何人も出ているような大学なので、大きな校舎が建ち並び、厳肅な雰囲気だろうと勝手に思いこんでいた。しかし、実際行ってみると案外自然が多くて、学生の作っただけのカンバンが立っていたりして、自由な感じだったので、拍子抜けしたが、逆に安心させられた。確かに自然豊かで、少しは伸び伸びできる環境がないと、とても勉強なんかできないだろう。そのせいか、見かけた大学生たちは、一人残らず、大学生活が楽しくてしかたがないという顔をしているように見えた。このような大学なら夢の実現にも力を入れることができるように思う。僕が行く大学もそうであって欲しい。

●文化祭

今年は中学校も店（バザー）ができて、バラエティーショーにも出て、中高一貫校らしいものでした。

体育館の中はとても暑かったけど、バラエティーショーはとてもおもしろかったです。

私は展示係で、時間が少なかったけど、かざりつけもできて達成感がありました。

とても楽しかったです。



●体育祭

体育祭はおどろきの連続でした。練習の時は、ムカデはろくに前にも進まないような状態だったし、長縄は人数も全員そろわないし、最高記録は20回前後でした。

でも、本番になってみると、ムカデも長縄もみんな息があっていて、最高に楽しかったです。何事もとにかく楽しんで必死になってやったら、しんどいことを忘れられるし、結果もついてきて、笑顔もこぼれるということを実感しました。

今年の学校祭は、中学校で最高の思い出の一つになりました。



編集後記

平成20年の春、新1年生を迎えることで全学年が揃い、県立川島中学校は新たなスタートを切る事となりました。すばらしい先生方の教えの下に、新入生も学校に馴染んで日々輝き出しています。規律を重んじる教育方針のおかげで子供達は切磋琢磨し、それが自信となって表れています。学校内ではあちこちで元気な声が聞こえて来ます。学校へ行った時にはいつも「こんにちば」「さようなら」と大きな声で挨拶してくれ、又、校内には生徒達のいろいろな作品が掲示されています。生徒達の個性がよく出ていて、先生との関係、友人との関係、自分自身の思いがうかがえます。授業参観日には、大勢の保護者の方々が来られその強い思いが感じられます。学習の中では高校生との交流もあり、よい刺激を受けています。部活動でも、全学年が揃う事により、充実した活動が出来るようになってきました。

本年度は、県立川島中学最初の卒業生を出す事となります。PTA会員の皆様のご理解ご協力を賜り、新たな歴史と伝統を、生徒や先生、保護者と共に築いていきたいと思っています。

企画・広報委員長 新居 義英



1年生（中学1年生）の保護者より

小さい頃から続けているクラブチームでの水泳が、部活動として認められているということもあり、息子の意志で県立川島中学への進学を決めました。朝練のある日は朝5時から登校、夜9時に帰宅。ハードスケジュールの中、充実した毎日を送っている様子はとても生き活きしています。6年間の一貫した教育で、部活にも勉強にも頑張っているのではないかと期待しています。



県立川島中学校に進学を決めたのは、娘でした。市立中学校へ進学するか県立中学校にするか、最後までずっと迷っていたようでした。

実は私も、娘の習い事で県中への進学にとまどいを感じていました。勉強に力を入れている学校で、クラブチームに所属して勉強との両立ができるのだろうか？ 何よりの心配事でした。

しかし、県立川島中学校へ入学し、楽しいことやつらいこと色々な体験をしながら、娘は見違えるほど、大人になりました。

勉強は大変な時もありますが、質問タイムや補習をしていただき、頑張っています。

先日の総体も、先生方に遠くまで足を運んでいただき、勉強だけでなく、いろいろな面で子どもたちを見てくれているのだと感激しました。

こんなすばらしい県立川島中学校へ入学できてうれしく思うとともに、娘には大きく成長してほしいと願っています。



我が家のあなたへ

県立川島中学校に入学して、180度生活が変わった。

毎日かかさずの部活。疲れはて、夕食もとらずに朝まで寝ていたこともあったね。今年の夏、初の体調不良。食事もうるらないのに、「休んだら？」の言葉にも耳をかさず、毎日毎日頑張っているあなた。とても素敵だね。

勉強と部活の両立は本当に大変で、喜怒哀楽に富んだ毎日だけど、どんなことにも立ち向かい、乗り越える力をつけていく時なので、先生も父も母もそうっと見守っているよ。

又、沢山の友達や先輩、先生方にめぐり逢えてとても幸せだね。



6年生に進級した昨年、バスケットボールを仲良しの友達と続けたいと市立の中学校へ進むことを考えていたようでした。そんな時、本校の公開授業があることを知り、子供と共に参加しました。当日学校の雰囲気や先輩のみなさんの授業を受ける態度、先生方の熱心に授業をされている姿を見た娘は、「県中へ行きたいな」と話してくれ、受験することを決めたようでした。そして、今年の春、希望どおり入学することができ、毎日勉強や部活、新しい友達のことを楽しそうに話す娘を見て、この学校に決めてよかったと親の私たちも実感しています。

まだ始まったばかりの学校生活、6年間と長いようですが、中学、高校を同じ学校で過ごせるという事は、学習面でも、自分の将来を考えたりするにも十分な年月だと思います。あせらず、ゆっくり自分の夢に向かって歩いて行ってほしいと思っています。



中学生になって初めての夏休み、補習に部活にと忙しくほぼ毎日登校しています。思えば去年の夏、県立川島への進学をするのかしないのかで本人は随分悩んでいました。

一番は仲よしの友達と同じ中学に行けないという事、親にしてみれば長男も進学していたので、すんなりと決まるんだろうなあと思っていたけれど、結構深刻で願書を出す間際まで迷っていました。しかし、長男の「行けば何とかなる。友達もすぐ出来るよ」と言う後押しで心は決まったようです。

今、娘は川島祭に向けクラスの旗を友達と作成し、楽しみにしています。中学生生活は始まったばかり、いろんなことを吸収して成長していったほしいと思います。



「いま、子どものためにできること」

徳島県立川島中学校PTA会長 徳山 博文

日ごろはPTA活動にご協力いただきありがとうございます。

県立川島中学校は、今年で4年目を迎え、ますます充実し、よりよい学校になるために邁進しています。

この春には第一期生を送り出しました。その卒業生たちは今、元気で高校に通い、勉強・クラブ活動に熱心に取り組んでいます。

また、新しく中学校に入学した生徒たちも学校生活になれ、楽しく過ごしていると思います。他の中学校にはない、高校生との交流があり、いい刺激になっていることと思います。

私は、ひとりひとりの子どもをよくすることが、学級をよくし、学年をよくし、学校全体をよくすると思っています。

そのためには保護者と先生が協力し、よりよいPTA活動をするべきだと思います。

PTA活動では、講演会等いろいろな活動がありますが、一度参加してもらえれば、新しい見方が生まれますし、子どもの新しい一面が見えてくると思います。

PTA活動は、今しかできない期間限定の活動です。

何もしなければ、そのままの変化のない生活ですが、PTAの活動に参加してみると、いろいろな人との出会いがあり、いろいろな意見が聴け、世界が広くなり、子どもと話をする機会も増えてきます。

私たち保護者も、一歩踏み出して、未来に輝く子どものために、何かいいことをしたいと思っています。

これからも保護者の皆様には、PTA活動への御理解・御協力をお願いいたします。



●家庭教育研修委員会

家庭教育研修委員会は、9月3日の文化祭と4日の体育祭で模擬店を開きました。文化祭の模擬店は、今年で4年目になります。昨年まで3、4店ほどだった模擬店も、今年は14店。ライバル店が増えたことで、販売数を昨年度の半分ほどに調整し、当然収益も半分ほどとなりました。しかし、これは本当に喜ばしい結果とも言えます。高校生は、新しいことにチャレンジする中で、たくさんの体験ができたことでしょう。また、中学生も高校生の活動によって、大いに刺激を受けたことと思います。私たち保護者も、ライバル店を巡りながら若い彼らのエネルギーをもらい、楽しく過ごしました。校長先生をはじめ、サポートしてくださった先生方、ご協力くださった皆さん、本当にありがとうございました。

●研修・親睦委員会

昨年9月14日に県立川島中学・高校PTA親睦球技大会が盛大に行われました。7つの地域に分けての対抗で、男性はソフトボール、女性はソフトバレーボールの競技で実施されました。私もソフトバレーに参加し気分は学生時代に戻ったのですが、気持ちだけが先走り、身体はボールに追いつきません。身体を動かし汗をかいて、試合の合間には、久しぶりの再会で話が盛り上がり、応援に声をかかせて…。日頃の運動不足とストレスが解消できたと思います。そして、保護者が一生懸命プレーしている姿を子どもたちにも見せたいなあと思いました。研修・親睦委員会では皆さんの参加をお待ちしています。是非、次の機会には一緒に楽しみましょう。

●人権教育推進委員会

昨年の10月16日、川島高校体育館に響き渡ったヴァイオリンの音色に強く心を揺さぶられ、満場の拍手を受けて広沢さんが浮かべた笑顔に思わず涙が溢れました。中高PTAの広沢大介さんコンサート及び広沢さんのお母様の講演会での事です。障害がある故に楽譜が読めるようになるまでに何年もかかった事、本人の努力、周りの人間の支え、言葉に尽くせぬさまざまな思いが今日のこの演奏の裏にかくれているのだということに胸を打たれたのです。感動という月並みな言葉では表現しきれない強烈な感情を呼びさまされる活動となりました。また11月23日の「人権のつどい」ではブロック毎に絵本を読み「わたしのいもうと」を担当しました。最後に全員で谷川俊太郎の詩「生きる」を群読し、普段会う機会のない他校の委員さんたちと力を合わせて活動できる場となりました。

4年生（高校1年生）の保護者より

- 中高一貫校の一期生として入学して、3年間川島中学で学びました。卒業するにあたり、進路について子どもと話し合いました。川島高校の魅力を充分に見てきたので、何の迷いもなく入学しました。入学後は、授業の仕方などにも色々な工夫をして頂き、今まで以上に、活力ある学校となっていると思います。中高6年間を通してここで学べることを、誇りに頑張っていると思います。
- 子どもは、県立川島中学校の一期生です。春に、川島高校の4年生になりました。クラスメイトの全員が、中学校の同級生という事もあり、教室は和気あいあいとした雰囲気です。高校の先生方も、顔見知りの先生が多いので、高校生活も、すぐ、慣れました。先生方も熱心に指導して下さい、学校へ行くのが楽しくて仕方がないという子どもの顔を見ていると、中高一貫校を選んで本当に良かったと思います。



- 娘から県立川島中学校を受験するという意志を聞いた時、川島高校へ進学することについて確認しました。早いもので、あれから4年。娘は川高生として、高校生活を過ごしています。高校生になったといっても、同じ敷地内で、中学生生活を共にした同級生たちと進学。お世話になった恩師や校舎がすぐそこに、というのも心強いことです。県立川島中学校の一期生として、それに続く後輩たちが川島高校を盛り立てていってくれることを期待しています。

- 高校への入学は、中学と同じ校内、友達。何の違和感もなく、あるとすれば、3クラスの友達が増えたこと。他には、大人びたネクタイがつけられること、自転車の通学でヘルメットをかぶらなくなったこと、みたいな、些細なことがほんの少し。高入生とは違う、学年が上がっただけの感覚。新鮮さには、欠けるけれど。中学からのクラスメイトの中で、授業に戸惑いもなくすんなりなじめている。部活でも、まだあどけなかった中学2年生の頃を知っている先輩たちはとても優しく接してくれる。中学生の頃からだけれど子どもは本当に楽しそうに学校に通っている。6年間のゆっくりとした流れの中で、学生生活を最後まで楽しく過ごし、かけがえのない、思い出をたくさん作ってほしいと思う。

編集後記

平成21年の春、一期生が高校へ入学して、四期生が中学校へ入学してきました。今年は、新4年生の保護者と、新1年生の保護者の意見を中心に、「絆」を作成しました。県立川島中学は、教育熱心な先生方と、それに素直に従って自分を磨いている生徒の集まりです。これからの学校活動のためにも、PTA会員皆様のもすますのご協力をお願いします。

企画・広報委員長 新居富美恵



この中学校でよかった!

1年生(中学1年生)の保護者より

「県立川島中学校に行きたい。」と娘が言い出した時、家族はみんな反対しました。最寄駅まで8km、片道1時間もかかる通学は、あまりにも大変すぎると思ったからです。入学してから6ヵ月が過ぎましたが、心配していた通学にもすっかり慣れた様子で、体力もつき、すいぶんたくましくなったようです。運動部に入部した娘は、夏休みだというのに毎日楽しそうに登校していました。きっと学校生活が充実しているからでしょう。娘からは、テストの失敗から部活でほめられたことまで、様々な話が聞けるので、学校のことを身近に感じることができます。娘の「県立川島中学校に行きたい。」という気持ちを尊重してよかったなと思っています。



昨年、息子が「県立川島中学校を見学に行く。」と言った時、中高一貫教育校で親子共々分からない事も多く、不安が先走った事を思い出しました。

しかし、「県中に行きたい。」と言う本人の意志もあり、入学までずっと見守って行こうと親も努力してきました。4月、入学式を終え、新しい友達ができ、部活動にも頑張っている姿を見て、県立川島中学校を選んだことを本当に良かったと思っています。入学してまだ数ヵ月しか経っていないのですが、我が子がすくなくたくましく、大きく成長できたような気がします。一貫教育の中で6年間日々頑張ってもらいたいと思います。



川島高 甲子園出場!!

オーストラリア

“かわいい子には旅させよ”

海外語学研修に参加させて

ずっと楽しみにしていたのに、なぜか準備は前日。親娘ともに「どうかなる。」と楽天的に出発の日を迎えました。この時になっても娘の不安は出入国手続だけで、ホームステイについての心配は皆無でした。

出発の翌日から帰国を楽しみに、娘のいない寂しい日を過ごしました。帰国当日は、朝からソワソワと学校からの連絡を待ち、昼に校門で娘の到着を出迎えました。笑顔での対面にホッとしましたが、「もっとオーストラリアでおりたかった。」の一言に複雑な心境でした。疲れも見せず、次から次へと土産話を披露してくれ、2週間の充実ぶりが手にとるように伝わってきました。

出発前にも「絶対に行きたい。」という強い意志や、細かいことにこだわらないおおらかな性格を頼もしく感じていましたが、更に成長した娘の様子に、学校生活にプラスになってくれればいいなと今後が楽しみでもあります。



まるで日帰りの遠足にでも出かけるような気楽さで出発していった娘は、疲れも見せずに元気に帰国した。人とのコミュニケーションが大好きな彼女にとっては、海外でのホームステイもわくわくこそすれ、緊張なぞするものではなかったようだ。語学研修とは言っても、わずか2週間。帰国後の彼女に語学力の向上という面では、これといった収穫は感じられないが、今回の貴重な体験が、今後の進路選択における一助とならんことをひそかに期待している。



● アルプススタンドでの感動

甲子園球場に響き渡る大歓声。これは川島高校野球部が選抜高校野球大会で優勝候補を相手に戦っている試合でのものです。甲子園は、高校球児にとっては憧れの大舞台。そこで堂々とした試合を繰り広げる選手達。それを精一杯後押しする応援団とスタンドに集まった観客。優に5,000人を収容することができるアルプススタンドが満員になることを、誰が予想できたでしょうか。スタンドと選手が一体となっているのを感じました。後に応援団が最優秀賞を受賞することになりましたが、その舞台の一員として立ち合い、手に汗を握る応援をすることができた感動は、一生忘れられることはないでしょう。このような機会を与えてくれた生徒達に大きな拍手を送りたいと思います。

● 甲子園の応援に参加して

応援バスの出発場所、吉野川市役所の駐車場には『至誠無息』の幟が何本もはためいていました。バスの左右の窓には『必勝!!川島高校』の文字が躍り、淡路サービスエリアに50台近くのバスが集結した様子は壮観でした。

何もかもが初めての、にわか仕立ての応援団。家でテレビ観戦なさっているPTA会長さんの知り合いの方から「きれいに映とる。声もよう聞こえるし、初めてとは思えん立派な応援じゃ。」とお声を頂いた時は、保護者一同、野球とは別の盛り上がりを見せ、甲子園のアルプススタンドで応援できる喜びをかみしめました。

中学生の保護者なのに、高校野球の(甲子園の!)応援に参加できるのも、中高一貫教育校ならではの思い出でした。

●高校生保護者より

中高一貫教育校…6年間を通して 一夢に向かう子どもたち

私は、誠実で熱心な県立川島中学校の先生方に、絶大な信頼をおいていたので、安心して子どもを送り出していました。子どもも充実した学習環境の中で学び、落ち着いた中学校生活を過ごすことができ、幸福だったと思います。県立川島中学校で学べて、本当に良かったというのが親子の実感です。今、子どもは4年生となり、自分の夢や希望に向かって一歩ずつ歩み始めています。「至誠無怠」の心で、高校生活を有意義に過ごしてほしいと願っています。

● 県立川島中高一貫教育校の一期生となりはや5年、親子共ども川島に導かれて幸せ者だと日々感謝致しております。

中学校で、度々実施して下さった進学説明会では、高校の先生方の熱意をひしひしと感じておりました。高校生活も中盤に入ろうとしております。きめ細やかな補習や勉強合宿等先生方の熱心な御指導に子供達も学習意欲が益々向上しているのではないのでしょうか。

学習面だけでなく、川島の温かい校風が心地良いです。正にPTA広報紙の名のごとく「絆」を感じながら夢に向かって一歩ずつ前進して欲しいと心から応援しております。

進路はこれから

51HR担任 田中 和利

数学の先取り学習は本校の特色であります。そして、これを最大限に活かすことがこれからの進路実現に向けて欠かせないことであり、本校入学の最大のメリットです。

「中学校では数学を得意にしていたのに、高校に入ってから急に分からなくなった……。」そんな生徒達の声を前任校で何度となく聞いてきました。しかし、本校の先取り学習に加えて、高校教師である私が中学3年生から授業に関わることによって、中学校から高校への学習内容への移行がスムーズに行われたように思います。教師の側も生徒一人ひとりの学習状況や理解度を把握することができました。中学3年生には授業の中で、高校と中学校との違いを伝えたり、授業の受け方やノートの取り方、問題演習の取り組み方からテストの臨み方も意識しながら授業を行ってきました。時には数学ソフトを使いながらビジュアル的に数学を考え、高校数学の奥深さを体験することもできました。生徒達の高校生になる自覚も早くから身につけることができたと思います。そして、いよいよ入学の時をむかえましたが、私自身こんなに穏やかに、そしてやる気にさせてくれた生徒達は今までなかったように思います。生徒達は見事に期待にこたえてくれ、安心して高校の学習内容に入ることができているようです。これは数学のみならず他の教科にも同じことが言えるようです。中学時代に学習した高校数学も、高入生の進度に合わせて再度学習できるため、あいまいな記憶や理解が深められます。「進みながら復習も同時にできる。」本校のメリットを最大限活かしているようです。おかげさまで、数学の校外模試の成績もこれまでにない良好な成績を収めることができています。そして、現在（10月）では高校2年の数学の内容は終わりを迎え、中入文系生は復習から受験対策へ、中入理系生は数ⅢCの内容へ移行しています。どちらも高校生活折り返し地点から受験を意識した学習へと変わりつつあります。あわてながらではなく、むしろ余裕を持ちながらじっくり取り組めており、6年間を見据えた本校の教育が順調にきているところであります。こうして生まれたゆとりの時間を使って、10月からは特設数学として文部科学省主催の「サイエンスパートナーシップ事業」で外部講師を呼んで、発展的な数学の授業を実施する予定です。この事業は数学分野においては県内高校で初めての試みであり、先端の数学の授業を受けられることができます。川島高校に入学した生徒にしか味わうことのできない教育であると自負しています。

現在5年生は中入生・高入生の混合クラスとして、「中入生は高入生に、高入生は中入生に負けない」という気持ちを持ちながらお互いに切磋琢磨しながら伸びています。夏の勉強合宿である「サマーチャレンジ」もみんなが意欲的に参加し、がんばっていました。これまでにない川島高校の新しい教育にチャレンジしながら、今後も中高一貫教育のメリットを活かし、最後は一人ひとりの進路を叶えていきたいと思っています。



子どもたちの健やかな成長のために 中学校PTA会長 坂野 洋子

県立川島中学校の歴史が始まって今年で5年目を迎えます。今まで県立川島中学校に携わってきて下さった先生方の指導のもと、生徒たちは様々なところで活躍しており、本校の生徒の記事が載っている新聞等を見るのが楽しみになっています。

また、部活動では運動部、文化部共に高校生と一緒に練習したり、一つの目標に向けて共に力を合わせて努力したりしている姿は感動的でもあり、本校の魅力の一つだとも言えます。生徒一人ひとりの頑張りが、私たち保護者の励みになっているといっても過言ではありません。

そこで、私たち保護者もPTA活動に関わることで子供の友達、先輩、後輩、またその保護者の方々と顔なじみになり、ちょっとしたことで相談し合え、情報交換できるネットワークをつくりませんか。保護者の方が忙しく、子どもに十分目を配れないことがあったとしても、皆で見守ることでフォローし合い、心配事を少なくできるのではないのでしょうか。そして県立川島中学校の生徒一人ひとりが、心身共に健全に育っていける土壤が培われることを願っております。

本年度もPTA活動にご理解をたまわり、一人でも多くの保護者の方にPTA活動に気軽に参加していただき、私たち保護者がみんなで県立川島中学校の生徒一人ひとりを温かく見守り育てていけたらいいと思います。



●家庭教育研修委員会

今年の活動は、9月8日の文化祭、9日の体育祭での模擬店の出店でした。

中学校・高校の先生方のご協力により、予約販売である程度の数量を把握できたため、準備がスムーズに進みました。

このバザーを通して、川島中高生やPTA役員の皆さんとの親睦を深めることができました。

打ち合わせをはじめ、忙しい中ご協力下さった先生方、PTA会員の皆様にお世話になり、すばらしい活動の場となりました。

●研修・親睦委員会

県立川島中・高校は毎年PTA親睦球技大会があり多くの保護者・先生方が参加しています。中学校・高校のPTAの皆さんが、このように顔を合わせて交流する機会があるのも中高一貫教育校ならではのようです。初対面の方でも球技をしている間に、会話したり声援を送ったりして、盛り上がっています。運動している方はもちろん、運動不足の方も気持ち良い汗をかき、楽しい時間を過ごしています。

●人権教育推進委員会

10月17日、大湾昇さんの人権講演会に参加しました。アンパンマンとバイキンマンに例えて、先入観が差別につながるというお話を伺いました。部落差別も同じで、大湾さんのお姿も被差別部落に嫁ぐ事により、兄妹と縁を切られ、辛く寂しい思いをされたようです。講演を聞き、この事について家庭で子どもと話し合う事ができました。鴨島支援学校文化祭での交流会は、インフルエンザ流行のため中止となり、とても残念でした。



編集後記

縁あって「ウミホタル」という生物に出会いました。名前の通り海中に棲む、体長3mmほどのミジンコの仲間です。この小さな生き物は暗くなると青い光の墨をはきながら水中を自由に泳ぎまわります。その幻想的な光は1匹ずつの命そのものです。時に波に揺られ時に水底でたたずみながらそれぞれの命を光らせています。そのウミホタルの飼育観察に取り組む生徒達も輝いています。県立川島中学校は懐の広い、大きな海原です。

企画・広報委員長 河野 靖子

温かくてすてきな学校

1年生の保護者より

- 朝早くから慣れない汽車通学……途中で弱音を吐いてしまうのではと、とても心配していました。けれど、多くの先生方や友達に見守られて、夏休みも毎日、部活動に通うことができました。本当にありがたいと感謝しています。参観日や三者面談の時、いつも思うことは、先生方の目が生徒ひとりひとりの細かなところまで行き届いているということです。こんなに温かくてすてきな学校に通うことができ本当に良かったです。これからもよろしくお願いいたします。



- 2歳上の姉の影響もあり、本人自ら県立川島中学校への進学を決め、無事入学することができました。私自身川島高校卒業生ということもあって、息子の入学説明会の時はとても懐かしさを感じました。運動場に車を止め、体育館まで歩いていく間、すれ違う生徒が、大きな声で挨拶するのを見て、息子は県立川島中学校の生徒になれて本当に良かったと確信しました。

入学から早6ヶ月が経ちますが、息子は朝早くから部活や勉強に熱心に取り組む楽しい毎日を過ごしているようです。そのような生き生きとした息子の姿を見るにつけ、県立川島中学校の生徒となったことを、親として嬉しく思います。そして、息子が大きく成長していく姿を楽しみ見守っていきたいと思います。



- 娘が「県立川島中学に行きたい。」と口にした時は、正直びっくりしました。仲の良かった友達とも離れ、はたしてやっていけるのかと家族で心配しました。しかし、本人がやる気を出して、勉強に取り組み、合格結果が届いた時は本当にうれしそうでした。

次第に新しい友達もでき学校に行くのが楽しそうで、また良い先生方にも巡り合えて、本人の意志を尊重して本当に良かったです。



- 「県立川島中学校へ行きたい。」と娘が言った時、すぐに反対しました。体力的な問題もあり心配だったからです。入学して半年が過ぎた今では、体力がつき、友達もできて学校生活を楽しんでいます。

部活動はもちろんのこと、勉強の面でも、質問タイム・補充学習をしていただき頑張っているようです。楽しそうに登校する姿を見ていると、娘の気持ちを尊重して良かったと思います。

- 昨年、中高一貫教育見学会に参加した際、教頭先生から「うちの学校の生徒は、本当によく勉強します。」という旨の説明があったことを未だに覚えています。非常に衝撃的でした。私たち大人は、「中高生時代にもっと勉強をしておけば良かった。」という話を度々します。ところが、いざ自分の子どもの中学校を選ぶときになると、小学校時代の友人関係や自由を重視してしまいがちです。県立川島中学校は、勉強や部活はもちろん、挨拶や笑顔も他の学校に絶対負けていないと思います。この学校に入って、親子ともに微塵の後悔もありません。心の通った教育方針に敬意を表します。



“希望あふれる県中づくり”をPTAから

徳島県立川島中学校 PTA会長 安丸 由紀

県立川島中学校は、今年で6年目を迎えました。私の子どもも、多くの先生方や友人に支えられ3年生となりました。

中学生の時期は、心身ともに成長が著しく、特に自分の意志でやってみたいという自立心がめばえます。我が子もまさにその真っ只中で、親の指図を「うるさい!」と言って嫌います。腹を立てる私を見て、「これこそ順調な成長だ。」と私の親が笑います。私も通って来た道のはずだと、そっと苦笑い。

子どもたちの自立心を、そっと見守ったり、温かい笑顔で包んだりする為には、保護者がPTA活動に積極的に参加すること一つだと思います。様々なPTA活動を通して、先生方や生徒の皆さんと触れ合うと、家庭では見られない子どもたちの姿や、成長の様子を見ることができる貴重な体験となります。今以上に「希望あふれる県中づくり」をPTAとしても支援していこうと考えています。

本年度も皆様には、PTA活動へのご理解と、積極的な参加をお願いします。“県中のPTA活動は、子どもたちに負けないくらい、元気で熱く楽しいですよ。”

ともに歩む6年間

●高校生の保護者より

4年生(高1)の保護者

- 中高一貫校で高校生になった息子。同じ敷地内の校舎で、既に3年間苦楽を共にした仲間と勉学に取り組む。中学時代から、高校の先生方にも部活動や授業のほかに中高祭等の行事・式典・進路指導と、折に触れ接する機会が設けられている。おかげで今年4年生になった息子は不要な緊張をせず、スムーズに高校生活を始められた。「不安な時、中学校の先生から『頑張っているな。』と声をかけていただきほっとした。」と彼は言う。心身共に成長期で不安定なこの時期。6年間という長いスパンで、大勢の熱心な先生方や仲間を支えられ、共に自分の夢に向かって進む。いいと思う。

5年生(高2)の保護者

- 私の子どもは、県立川島中学・高等学校に入学してから、今年で5年目を迎えます。今年は県立川島中学の第一期生が6年生になり、中高一貫校として確実に新しい学校に変わりつつあると実感しています。
県立川島中学校・高等学校で、今の時間を一緒に過ごす、これが切っても切れないつながり、「絆」ではないでしょうか。
この県立川島中学校・高等学校で子どもが勉強や部活動をする事、保護者が参観日やPTAの行事に参加することで、人と人をつなぐ大切な「絆」が生まれたと感じております。
私たち保護者が、子どもと一緒に活動できる時間は限られています。もっと、子どもと一緒にいる時間を大切に、社会に貢献できる人として、お互いが成長していけたらいいと思います。



6年生(高3)の保護者

- 親のすすめで受験した上に、同じ小学校からの友人もいない。いつ「行きたくない。」と言い出すか……。しかし、その心配もつかの間のことでした。熱心に指導してくださる先生方や、個性あふれる同級生に囲まれ、毎日楽しくて仕方がないという様子が帰宅後の弾んだ会話に出ていました。6年生になった今も同じで、学校生活を満喫しています。
大学入試を迎えたこの夏休みは、毎日の補習と川島中高祭の準備に登校しましたが、本人は全く苦にならないと言っていました。何事にも前向きに学校生活を過ごすことができたのも、先生方のご支援のおかげだと思えます。
また、ボランティア活動や様々な校外の活動に参加を勧めていただいたことで、「社会の中で何ができるか」という自分の可能性も見つけることができたようです。子どもがこの経験を活かし、さらに能力を伸ばせる大学を選ぶことができたのもこれまでの歩みがあったからだと思います。中高一貫教育の良さを改めて実感しています。



高校数学の学習における「目的と結果」

51HR担任 志磨 正師

数年前になるのだが、授業でクリア問題集のテストをする際の前の休み時間のことである。ある生徒は、クリア問題集とその詳細な解答を並べて開けて真剣に読んでいるのである。生徒自身にしてみれば、テストで同様の問題が出題されるのだから、解法を確認しているつもりなのだろう。しかし、よく考えてみて欲しい。彼の目的は何なのだろうか。クリアのテストで例題を解答用紙に写しきることだろうか。数学の例題を暗記することだろうか。それとも数学の解法を理解することなのか。

「典型的な例題」を「覚える」ために解答を読み覚えることは、中学までならそれで通用するかもしれない。大学受験は丸暗記では対応しきれない問題が多いため実際の点数にはつながらない。授業においても、教師が「問題に対する考え方」をていねいに解説し、板書をしたとする。生徒自身が、その時にしっかり考えずに黒板に書かれた解答をただ写すだけなら、それは前述と同様の解答を読んだだけということになる。

数学的な思考力をテストされるのだから、そのつもりで普段の勉強に取り組む必要がある。典型的な例題を何度も繰り返し解答しながら、その解法での考え方や別解について検討し、その結果解法を覚えてしまったというのであれば問題ない。しかし、最初に述べたように自分でまとめたものを見るのではなく(要するに必要な考え方や図、とっかかり等の自分に必要な思考の手がかりやエッセンスをまとめてあるものを読むのでなく)解答をただ読むのでは意味がないと思う。

「考えること」「時間をかけていろいろ考えること」そのような回り道の時間が本当に数学の思考力を育てることにつながる。実際に自分で問題を解き、間違えて、初めて気付くことも多い。普段の勉強でたくさん間違えることで大学入試本番で間違えない。そして、ある程度典型的な例題ができるようになった段階で、少し難度の高い問題を「考えて解ききる」練習に取り組んで欲しい。解答を読んで覚えていただけでは、この次の段階に進むことはできない。解答を覚えているだけで思考していない(いろいろと試行していない)ということにならないために、正しく「考え方」を身につけることを意識しながら、普段の家庭学習を大切にしてもらいたいと思っている。

●家庭教育委員会

今年も、文化祭・体育祭の両日、恒例の模擬店を出店しました。打ち合わせから、材料の買い出し、当日の焼そば作りなど多くのPTA会員の皆様にご協力いただきました。また、お忙しい中、先生方には予約に携わっていただいたり、中高生の皆さんには、テント設営でお世話になったりしました。

この活動を通して、川島中高生やPTA会員の皆様と一丸となり運営でき、交流や親睦を深めることができ有意義な2日間となりました。

●研修・親睦委員会

PTA親睦球技大会は9月18日に開催されました。今年は、「女性もソフトボールに参加してみたい。」との声が上がリ、女性のソフトボール参加者を募ったのですが、あいにくのグラウンド状態で、ソフトボールはできず、体育館でソフトバレーボールを男女混合チームで行いました。若い頃のように身体が動くかどうか心配だったのですが、日頃の運動不足を解消し、参加者一同気持ちのいい汗をかくことができました。
今後も、PTA会員が、仲良く交流して楽しい時間が共に過ごせるよう、多くの皆さんに参加していただけることを楽しみにしております。

●人権教育推進委員会

ある識者が「個性とは、この世界でその人しか持っていない宝の一品である。」と語っている。人は個性という自分にしかない宝をもっている。自分にしかできない使命をもっている。個性があるから、その人でなくてはならない生き方があり人生があり、使命がある。
今回講演に来てくださった繁耕先生は「差別をなくす」という使命をもって生きておられる。縁あって先生のお話を聞き、私も個性を生かして私にしかできない使命を果たしていきたいと改めて感じた。



編集後記

8月後半、企画広報委員の皆さんと、中学校の教室で「絆」の編集をしました。たくさんの原稿に目を通しているうちに、「あれっ、この感じ、どこかで……。」とかすかな懐かしさを感じました。○十年前、中学生の私は卒業文集の編集委員として、たくさんの原稿を教室で読んでいたのです。いつか子どもたちも中学での経験を思い起こす日が来るのだろうか。今日を積み重ねた先にある未来を思い、「人生の全てに意味がある……。」と心の中でつぶやきながら編集作業ができました。貴重な体験、感謝、感謝!

企画・広報委員長 上田 千賀



1年生の保護者より

- 息子から県立川島中学校に興味があることを告げられた時には正直、驚きました。見学後も意志は変わらず、4月に入学することができた時には喜びながらも親としては不安もありました。しかし、毎朝の汽車通学に慣れ、新しい友達もでき、部活や勉強のことを楽しそうに話す息子を見ていると不安も無くなっていきました。先生方の細やかな指導もありがたく、この学校の生徒になれて本当に良かったと思っています。



- 緊張した初めての受験。ドキドキした合格発表。期待いっぱいだった中学校生活で、勉強や部活に毎日励んでいます。勉強面では、授業についていけるのだろうか心配でしたが、テスト前の質問タイム・補充学習をしていただき頑張っています。息子が「県立川島中学校に行きたい。」と言った時には、どうなることか……と不安でしたが、楽しそうに通学する姿を見ると、この学校を選んで本当に良かったと思います。



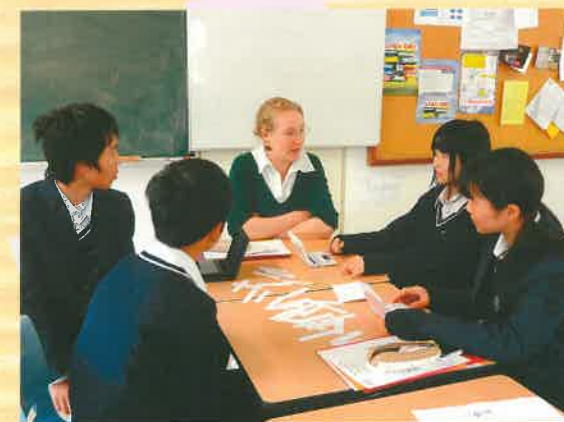
- 県立川島中学校の学校説明会に参加した時、「この学校に決めよう。」と思いました。丁寧な教育指導と充実した部活動に魅力を感じたからです。中学入試にあまり興味を示さなかった息子も説明会参加後に「県立川島中学に行きたい。」と言いました。入学してから約半年、先生方には勉強に部活動にと心身ともに善導していただいています。保護者としてもできる限り協力し、子ども達のこれからの成長を見守っていきたいです。



海外語学研修(オーストラリア)

- 海外語学研修の案内があったその時に「私は一人でも絶対に行く。」と言った娘のチャレンジ精神に不安はありましたが、OKしました。「少しは苦労してきたら」という気持ちで送り出したものの、娘のいない2週間は家族中がずっと心配していました。ところが、帰国した娘は「2週間じゃたりない。2年後も行く。」と驚きの発言をし、思った以上の成長を感じました。井の中の蛙だった娘が大海を知った今、次は宇宙を目指すと言いださないかと心配ですが、更なる成長を応援しようと思い期待しています。家族の絆が深まったオーストラリア研修でした。

- 娘がオーストラリアへ出発してから2週間、あれやこれやといらぬ心配ばかりして過ごしました。「ただいま。」と笑顔で帰ってきた姿を見て、やっと一安心できました。現地の家庭にホームステイして学校に通うことで、異国の文化や習慣に直接ふれることができたと思います。何事にも自信が持てない娘でしたが、今回の研修に参加して自信にもつながり大きく成長したように見えます。まだ将来の目標が決まっていない娘が、自分の未来を選択していく中で、今回の体験が何らかのヒントになってくれたらと願っています。貴重な体験をさせていただき、改めて県中生は恵まれていると感じました。引率して下さった先生方には大変お世話になり、ありがとうございました。



「今」を大切に

徳島県立川島中学校 PTA会長 野口 憲仁

今春、県立川島中学校の1期生が中高一貫の6年間を無事終え、学舎を巣立っていきました。在校生の皆さんは、日々充実した学生生活を過ごしていることと思います。

学生生活は文武両道という言葉がよく聞かれますが、部活に集中するあまり、他のことが疎かになることが多々あるかと思います。私にもそういう経験があったのでよくわかります。大人になって気づくことが多いのです。

「あの時にこれをしてあげばよかった。」

「なぜあの時にこうしなかったのだろう。」と――。

「あの時」こそが子ども達にとっての「今」なのです。「今」に気づくのは早いに越したことはありません。「今」自分がしなければいけないこと、これをもう一度考えてみましょう。とにかく「今」できることを行動に移すことが大切です。何もしないところからは何も生まれません。その結果に後悔しないよう、やりきることの大切さを感じてほしいと思います。

我々PTA会員は、校長先生をはじめ諸先生方と色々な連携をとりながら子ども達をバックアップする応援団でありたいと思います。保護者の皆様方にはPTA活動へのご理解と積極的な参加をお願い申し上げます。

1期生から後輩へ

「楽しかった川島中高での生活」

徳島大学 総合科学部 人間文化学科 1年

● 中学・高校とも本当にのびのびと学校生活を送らせていただきました。その分、中高の先生方には迷惑をかけたと思います。今の自分があるのは間違いなく川島中高で出会った友人、そして何よりも温かく支えてくださった先生方のおかげだと思います。部活動では陸上部と囲碁・将棋同好会の2つを掛け持ちし、ボランティアにも参加するなど多くの機会に恵まれました。たくさんの素晴らしい経験を通して自分自身が大きく成長できたと思います。大学受験の時には毎日遅くまでご指導いただき、合格の通知をもらったときは先生方と一緒に涙することができました。本当にありがとうございました。

「中高6年間を終えて」

札幌学院大学 人文学部 人間科学科 1年

● 6年間の学校生活を通して、様々な出会いがありました。中学校の時には、部活や体育祭・文化祭などの機会に高校の先輩と関わり、様々なことを教えてもらい、いい経験になりました。また、先生方は親身になって相談にのってくださり、友達とも表面上ではなく、深く関わることができ、よい人間関係を築けたと思います。

勉強の面においても、中学生の頃から高校の内容を先取りして分かりやすく教えてもらえたので、よく理解できました。また、中学1年生から高校の先生に教えてもらう機会もあり、将来についてもより早く意識できたと思います。進路が決まる最後まで支えてくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

「6年間の感謝の気持ちを込めて」

広島大学 教育学部 第2類数理系 1年

● 「一緒に夢を叶えよう」担任の先生のこの言葉で高校生活が始まりました。中学校から気心のしれた仲間達とともに過ごした高校3年間。それ以来ずっと支えていただき、ついに第1志望大学への合格を勝ち取ることができ、中学校の先生方にもすぐにうれしい報告ができました。これも川島中高ならではの思い出だと思います。早朝から放課後遅くまでの補習授業、土曜日や休日でも付き合ってくださいました先生方には本当にお世話になりました。特に思い出に残ったことは、3年連続で夏休みの学習（サマーチャレンジ）に参加したこと。友達や先生方と同じ時間を過ごせたことは、一生の思い出になりました。そうして手に入れた今の状況に夢のような気持ちがあります。今は大きな目標「数学教師」に向かってがんばっているところです！

「川島中高で6年間を過ごして」

鳴門教育大学 学校教育学部 技術専攻 1年

● 川島中高での6年間は私にとって、とても有意義な時間でした。中学校ではまだまだ自分自身が幼く、甘えていたせいで先生方にはたくさん迷惑をかけたと思います。でも、いつも温かく見守ってくださいました先生方のおかげで、川島高校には目標を持って進学することができました。高校でも担任の先生をはじめとして多くの先生方に支えていただき、あっという間の3年間でした。勉強はもとより、部活動で出会った仲間との絆やボランティアを数多く経験したことが自分の今の進路につながっています。将来は川島中高で教えて頂いた先生方に少しでも近づけるように大学で一生懸命勉学に励んでいるところです。



高校生の保護者より

●4年生の保護者

● 中入生として、川島高校に入学した2人の息子。中学の頃から頑張ってきた部活に高校でも打ち込む毎日です。“文武両道”の精神のもと、朝早くから夜遅くまで頑張る息子達を見て、親も奮起させられ、PTA活動に貢献したいと思わざるを得ません。高校に入る時は、様々な不安を抱え、他校の受験も考えましたが、細やかな中学校の先生の言葉一つ一つに心動かされ、今2人は、川島高校生として大学受験という目標に向け、突き進んでいます。

●5年生の保護者

● 県立川島中学校が新設されて今年で7年目を迎えます。1期生で入学した息子が今年大学に入学しました。娘は地元の中学校に行くことも考えましたが、兄が県中に通っていて、他の中学校にはない県中のプラスの面を目の前で見たり聞いたりしていたため、県中に行くことに決めました。6年間を通して同じ環境で学ぶことのできるこの場所こそ自分の夢をかなえるために落ち着いて努力することができるところだと子どもたちは言っています。保護者としても、子どもと一緒に成長していけることに感謝しています。

●6年生の保護者

● 中高一貫教育校で、あっという間に6年生になりました。

子どもの中学生時代は、思春期の一番難しい時期でもあり勉強と部活動の両立など様々なことで悩んだり、苦しんだりすることがありました。しかし担任の先生が、迅速かつ根気強く関わってください、また多くの友人にも元気づけられ、辛い時期を乗り越えられたのだと思います。

6年生になってから、受験を控えての、補習、補習の毎日ですが、子どもは眠い目をこすりながらも、机に向い、猛勉強をしております。

先生方への信頼と、仲間との絆が、厳しい受験を乗り越えていける大きな力となると思います。

これまでの6年間を振り返り、県立川島中高一貫教育校で、多くの方々に出会い手塩にかけて育てていただいたという感謝の思いとともに、保護者自身も先生方との交流から、親として成長できたのではないかと感じています。

●家庭教育研修委員会

家庭教育研修委員会は、川島中高祭で毎年恒例の焼きそば・フランクフルト・アイスBOXをPTAの模擬店で販売しました。今年は生徒のバザーも充実していたので、売れ残るかもと心配していましたが、完売できてホッとしました。アイスBOX販売の合間には、生徒たちの熱気あふれる競技を観戦し、普段見られないような子どもたちの姿に感動しました。

●研修・親睦委員会

男女混合のソフトバレーボールに変更し、学年対抗のトーナメントでスムーズに進行できました。普段はコンピュータの画面や書類が相手の私たちですが、思い切り体を動かして、心身ともにリフレッシュでき、気持ちの良い汗をかき、楽しい時間を過ごすことができました。また、日頃はお付き合いできない皆さんとの交流も図ることができたので、とても良かったです。

●人権教育推進委員会

人権教育推進委員会は、毎年、人権教育講演会に参加しています。去年の10月27日は、阿波市民劇団「千の舞い座」代表の十川勝幸さんからハンセン病患者・回復者に対する差別や偏見について教えていただいた後、人権劇「千の舞い〜ふるさとへ帰りたい〜」を鑑賞しました。



編集後記

長男が入学してから4年半。そしてあと半年で次男が中学校卒業。その間毎年「絆」の編集に参加し、大勢の方との出会いがありました。1年に3回程度の集まりですが、編集作業に携わりつつ情報交換の場でもありました。日常生活から少し離れた活動は、私にとって新鮮で刺激的なものだったと思います。

私の手はあなたの手につながり、その先へその先へと人の結びつきは続きます。時間と場所をご一緒くださった皆様、ありがとうございました。

企画・広報委員長 河野 靖子



絆

～きずな～ vol.7
平成25年10月発行

「学校が楽しすぎるもん！」

1年生の保護者より

- 県立川島中学校の入学説明会で「本校の生徒は本当によく勉強します。」と先生がおっしゃいました。あの時は娘と顔を見合わせましたが、入学してからの娘が、いつの間にか本当によく机に向かうようになっていました。この4か月で真面目に勉強に取り組むことの大切さと、工夫を凝らした授業から、勉強の楽しさを学んだようです。県立川島中学校の生徒になれて本当に良かったと思います。これからも親として娘の成長を見守り続けたいと思います。



- 小走りで帰り、玄関で靴を脱ぎもしないうちから「お母さん、私もう土日いらんよ。学校が楽しすぎるもん。」と、目を輝かせ話す娘。親としてこれ以上幸せな言葉はありません。入学3か月で、あの娘が次々と自分のしたいことを見つけ、活き活きと取り組む子どもに変化したことに驚いています。



県立川島中学校の一番のすばらしさは、先生方が、常に「やればできる」という励ましの姿勢で子どもに関わり、自信や感動を大切にしてくれていることだと思います。



- 県立中学校の見学会に参加した時、楽しそうに授業を受けている生徒の皆さんの様子が印象的でした。中学時代は一番難しい時期だと思うのですが、ここなら息子も楽しく落ち着いて過ごせると感じました。入学式当日は高校の野球部員をはじめ、先輩の方々に「おめでとうございます。」と声をかけていただき、大変感動しました。入学後、すばらしい先輩や、熱心で親しみやすい先生方に囲まれ、私の想像以上に充実した学校生活を送っている息子の姿をうれしく思っています。



「出会いを大切に」

徳島県立川島中学校 PTA会長 谷田 憲二

本年度、第8期の新生を迎え、県立川島中学校は中高一貫校として、成果と自信を持って前進しています。生徒の皆さんも熱心な先生方のもと、笑顔で生き生きと有意義な日々を過ごしていると思います。

3年間という短い中学時代は、好奇心や新しい出会いの場であり、他人のことを考えたり自分を大切にしたりすることで、自分自身を作り上げていく時期でもあります。クラスの仲間と勉学に励み、先輩や後輩と共に部活動や学校行事等、様々な経験をするのは長い人生の土台となるものです。

大切な出会いを見逃さず、しっかり受け止めて自分の将来の夢につながるよう、仲間と一緒に向上心を持って進んでもらいたいと願っています。

PTA活動も、先生方、保護者の皆様の出会いを大切に、子どもを育てながら、共に育つとの思いで取り組みたいと思います。

今後とも、PTA活動の参加、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

2期生から後輩へ

「川島で6年間を過ごして」

奈良女子大学 理学部 物理科学科 1年

- 川島中高で過ごした6年間は、長いようであつという間でした。しかし、その中でたくさんのことを学び、成長することができました。中学生のときは、集会や行事で高校生の姿を見て、高校生活へのあこがれを抱いていました。また、難しくなる授業への対策として、先取り学習をしていただいたおかげで、余計な不安をもつことなく、高校生活の準備とスタートができたことは本当によかったと思います。

高校でも、中学同様すばらしい先生方に恵まれ、4年生のときから受験を意識した授業を展開していただきました。特に、6年生のときは土日であろうが、夏休みであろうが面倒をみてくださる先生ばかりでした。在学中に先生からかけていただいた言葉や、合格を報告したときの先生方の笑顔は今でも心の中にあり、私を支えてくれています。6年間本当にありがとうございました。

「6年間を終えて」

徳島大学 工学部 光応用工学科

- 小学校の大半の同級生に別れを告げて、川島中高の6年間を過ごすことを決めた時、初めは不安でたまりませんでした。しかし、優しく頼りになる先生方や友人たちに囲まれて、充実した6年間を過ごすことができました。特に勉強面では、中学校の頃から大学受験を目標として、先生方が力を入れてくださったことで、高校入学後も授業についていくことができました。最初は大学に合格できるなどと少しも思っていなかったのに、成績が伸び、多くの先生方から励ましの言葉をいただいたことで、「自分も行きたい大学に行けるんだ！」という自信を持つことができました。色々な人に6年間支えられ、自分も少しは成長できたと思っています。在校生の皆さんをこれから数多くの試練が待ちうけていると思いますが、辛いと思ったときは、川島中高の先生方に相談すれば、きっと力になってくださるはずです。一人ひとりの生徒のことを常に気に掛けてくださった先生方、本当にありがとうございました。

「6年間の川島中高での生活を通して」

静岡大学 農学部 環境森林科学科

- 川島中高で過ごしたこの6年間は、思い出がいっぱいで、大変充実した時間だったと思います。特に、中学校で会長、高校では副会長と生徒会に携わってきた私は、楽しかったことや学んだことがあったと同時に、学業との両立が難しいと感じた時が度々ありました。しかし、気軽に先生方に質問に行くことができる環境が整っていたり、数・英の先取り学習の貯金があったりしたことで、6年間で勉強に困ったことは少なかったと思います。

川島中学に入学し、そのまま川島高校へ進学したことで、たくさんの友人や先生方に囲まれ、様々な経験をすることができました。今の私が幸せだと感じるのは、川島中高のおかげだと感謝しています。

先輩から学ぶ

3年生の保護者より

- 県中から入学してきた生徒と地元や周辺の中学校から入学してきた生徒が、川島高校生としてお互いの良さを認め合いながら切磋琢磨する姿が印象的です。

そんな中、現役川島高校生の生の声を聞く機会がありました。「先輩から学ぶ」という授業で、高校生たちは、夢に向かって取り組む姿勢と向上心を持つことの大切さを語ってくれました。話を聞く中から本校には、「いじめや学級崩壊の心配もないな。」と親としても安心しました。さわやかな高校生の話から子どもたちは、さらにそれぞれの目標に向かい進むことでしょう！



- 7月に「先輩から学ぶ」という授業を参観しました。川島高校の先輩方は、各々に特色のある勉強法や、部活との両立について、また自分の信念についてあますところなく語ってくれました。おごることなく、後輩たちへすべて伝えたいという気持ちが、私たち保護者にも伝わってきました。共通していた意見は「川島高校が大好き。川島高校だからこそできることがある。」ということ。私は、「娘がこの高校に進むことができるのだ。なんて幸せなのだろう。」と感じました。「文武両道」の言葉がぴったり！の学校。いつか娘も中学生の皆さんに自分の思いや学校の魅力を語ってくれたらなあと思いました。分けへだてなく、手をさしのべてむかえてくれる先輩方をお手本に、温かくて素敵な高校生に成長してくれることを信じています。
- 長男が中学3年生となり、親として高校進学への不安を感じ始めた頃、「先輩から学ぶ」という参観授業がありました。中高一貫教育校の特色をいかした授業で、川島高校の中入生を中心とした生徒の皆さんから話を聞く機会をいただきました。

高校生の皆さんの話はとても興味深く、部活動に励みながらも学業と両立してがんばっている人もいれば、勉強中心の生活で、短い睡眠時間の中、集中して勉強している人もいました。生徒の皆さんがそれぞれ目的意識を持って取り組んでいる姿が、とても好意的に感じられました。

高校生の有意義な話を聞かせていただき、息子が県中生で良かったと思いました。息子が川島高校へ進学した時、自分なりの目標を見つけがばってしてくれることを願っています。



校内合唱コンクール

保護者の感想より



閉じて聴いていると、私も青春時代に還ったような気がしました。

- 子どもたちの素直な歌声にとても感動しました。勉強にスポーツにと毎日忙しい中、一生懸命練習したのだと思うと胸が熱くなります。中学生最後のとても良い思い出になったと思います。
- 各学年、各クラスのカラーが豊かで楽しかったです。クラスが一体となって一つの曲を仕上げるまでの努力が感じられた時間でした。温かい気持ちになりました。
- どの学年どのクラスも澄んだ歌声ですばらしかったです。みんなが一つになり、心を合わせて歌う姿に感動しました。
- 「合唱コンクール見に行ったほうがいいの。」と尋ねると、意外にも「うん。来て！」と返答が。これはもう行くしかない仕事の段取りをつけ、学校へ足を運びました。そして、すべてのクラスの合唱を聴いた今、「ああ、本当に来てよかった。」の一言につきます。中学生の子どもたちの歌声を聴いてこんなにすがすがしい気持ちになれたのは、一人ひとりが一生懸命がんばり協力したからだと思います。温かく見守り、支えてくださった先生方にも感謝します。



修学旅行

- 今年度も、沖縄に2泊3日の修学旅行に行きました。1日目は、ひめゆりの塔や平和の礎を訪れ、戦争の悲惨さや命の尊さを実感しました。2日目・3日目は、沖縄の自然や文化を肌で感じることができました。大切な仲間と過ごした時間は、忘れられない思い出となりました。



文化祭・体育祭

- 文化祭は、学習の成果が表れた展示をみたりクラスで協力して模擬店を出したりと、充実した時間になりました。高校の模擬店は趣向に富み、足を運んだ中学生は大きな歓声をあげていました。例年にない雨が降り続き、種目練習が十分にできませんでしたが、体育



祭当日は青空の下、高校生のエネルギーに圧倒されながらも、中学生もクラスの絆を強め、がんばりを見せました。中学生も高校生も、ともに踊ったフォークダンスでは笑顔があふれ、感動の2日間となりました。



海外語学研修

- 昨年度は中学生16名と高校生7名が、オーストラリアのパスで2週間過ごしました。ホームステイしながら、平日は現地校で授業を受けました。ホストファミリーをはじめ、多くの人々と出会い、異文化を体験することで新しい自分を発見するなど、それぞれに大きな成長がありました。



編集後記

子どもの頃、家から近い学校に通う友人がうらやましかった覚えがあります。はからずも川島高校近辺に嫁ぎ、これまた「近い」という理由で、長男が県立川島中学校に入学しました。また、1年後に「絆」の編集に参加したきっかけも、単に、「ご近所のよしみ」でした。そんな私の軽い気持ちに反し、集まった先生方や保護者の皆さんの学校や生徒への熱い思いに引っぱられ、編集活動に携わる日々となりました。短い間でしたが貴重な時間を共有させていただいた皆様に感謝です！

登校は前のめり、下校は尽きぬ話でゆっくり、そんな風景を「近所のよしみ」でいつまでも見守り続けたい、私の今の気持ちです。

企画・広報委員長 川村 育代



「心はワクワク 目はキラキラ」

1年生の保護者より

- 「県立川島中学校の説明会に行きたい。説明を聞いて、受検のための書類を準備してほしい。」と、息子が案内書を持って来ました。保護者としての情報収集はかなり遅れをとりましたが、先輩保護者さんもお子さん達も自信に満ちた表情で次々に体験を聞かせてくれました。わが子が心ひかれたのも当然のことでした。

入学後、先生方のご指導の下、自分磨きにまだまだ悪戦苦闘中。「行ってきます。」「ただいま。」の大きな声が響ることなく毎日元気に通っています。



- 初めての受検、夢の合格通知。真新しい制服に息子は目をキラキラさせ、毎日勉強や部活動に励んでいます。県立川島中学校ではテスト前に質問タイムがあり、わからないところを優しく教えてくださいます。週末課題のプリントには「努力は裏切らない」という言葉が書かれており、生徒を思う気持ちが伝わってきます。先生方の愛情や細やかな指導にこの学校へ入学できた喜びを日々痛感し感謝しています。これからの学校生活を有意義で充実した日々にしてほしいと思います。

- 「姉ちゃんいいなあ。体験学習とかいっぱいあって。」2歳上の姉が県立中学校での出来事を楽しそうに話すのをうらやましがっていた息子が、去年「僕も行く。」と言いだし、今年入学しました。毎日授業や部活動が楽しくてしかたない様子です。親として、そんな子供達の姿をみるのはうれしいです。3年後ではなく、高校を卒業する6年後を見据えた教育をしてくださり、勉強は元より、様々な体験学習を通じて、それぞれの個性にあった指針で熱心に導いてくださることに感謝しています。

- 「県立川島中学校に行きたい。」そう娘から聞いた時、気にも留めていませんでした。受検、入学式を経てようやく実感。期待と不安の入り交じるなか学校生活がスタートし、今では先生方やお友達にも恵まれ、勉強や部活動に毎日楽しく励んでいます。また、学校の行事などについても、様々な体験をさせていただき、とても貴重な中学校生活を送れていると感じています。この学校で、これからどんなふうに成長していくのか楽しみです。



心待ちにしていた

海外語学研修 (オーストラリア)



- 海外語学研修に参加することを、入学当初よりずっと楽しみに、その日がくることを心待ちにしていた娘ですが、初めての異国でのホームステイに期待半分、不安半分という感じで出発の日を迎えました。笑顔で手を振り、出発する娘を見送ってからの2週間は、少し寂しくもありましたが「今頃何をしているかな。」などと話しながら帰国の日を楽しみに過ごしました。

帰国当日、バスから笑顔で降りてきた娘は長旅の疲れも感じさせずたくさんの写真を見せながら、ホストファミリーとの楽しい時間や、日本の学校にはない授業スタイルなどを話してくれ、とても楽しく充実した2週間であったことがよく伝わってきました。

中学生という早い段階で海外語学研修を経験できたことは、英語に対する意欲向上にもつながり、娘にとってとても良い刺激になったことと思います。この度は本当にお世話になりました。

- 「海外語学研修に行きたい。」と言い出した時、私は大賛成しました。2週間も生きた英語にふれることができる貴重な機会だと思ったからです。心配な気持ちより、たくさんのことを吸収し学んでほしいという期待感が大きかったです。

帰国した息子は何時間も楽しかった思い出を話してくれました。ホームステイ先の家族の方が優しくして下さったことは本当にうれしかったそうです。

「伝えたい!!」という気持ちで毎日身振り手振りを使い一生懸命話したことは今後の自信につながればと思います。異国の地にとびこんだ勇気、たくさんの出会い、今まで経験したことのなかった貴重な体験をぜひともこれからの人生に生かしてほしいです。



「失敗」を恐れずに

徳島県立川島中学校 PTA 会長 吉田 和史

題名からして陰気な感じを受けるかもしれませんが「何事もチャレンジ」と言えば理解していただけるでしょうか。

子供達は受検にチャレンジし、今充実した日々を送っています。子供の視野を広げるためにもいろんなことに「チャレンジ」「失敗」をさせてあげてください。失敗を恐れていると何も先に進みません。親は、子供が悩み困っている時、そっと背中を押してあげるくらいで良いのです。

PTA 活動は、校長先生をはじめ諸先生方と保護者のふれあいの場。そして悩みなど、情報の共有ができる場です。

これからも、有意義な活動となるよう努力をしていきますので、保護者の皆様のご理解ご協力、ご参加をよろしくお願いします。

3期生から後輩へ

「川島中高での6年間」

静岡大学 農学部 環境森林科学科

- 先生方や友達と過ごした川島中高での6年間はとても有意義なものだった。特に中学で高校課程の数学を先取りしていたおかげで、高校の授業が十分理解でき、早い時期から大学受験に向けた勉強に取り組むことができたのだ。これは川島中高ならではの良さだと思う。最初は志望する大学、学部がなかなか決められず焦っている私に、先生が定期的に個別面談でアドバイスをしてくださったことで、自分が行きたい大学がより明確なものになった。その結果、志望校に合格するための勉強が集中してできた。早朝、放課後、休日をいとわず忙しい中、私達のために毎日熱心に指導してくださった先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱい。6年間支えてくださった先生方のおかげで大学に合格でき、充実した大学生活を送っている。

「いつか教師として」

愛媛大学 教育学部 特別支援教育教員養成課程

- 私は川島中高に入って本当によかった。大学の受験勉強に励むようになってからも、中学でお世話になった先生と廊下ですれ違うことがあるが、その度に先生方が笑顔であいさつを返してくれる。それが、勉強のやる気にもつながり、懐かしい顔を見ることによって、自分が今までいろいろな人に支えられてきたのだということを実感できた。これは、中高一貫教育校の良さの一つだ。
良いところを挙げればきりがないが、中学での先取り学習や体育祭や文化祭での高校の先輩との関わりは、中学生にとってドキドキする時間だった。また、先生方の熱心な教科指導はこの学校ならではの良さだ。
私にとっての6年間はすばらしい思い出ばかりなので、いつか教師になって県立川島中高に帰ってきたい。

「今、君たちに伝えたい」

徳島大学 工学部 化学応用学科

- 「中学生が高校生と同じ敷地内で義務教育を受け、さらに高校生として同じ学校に3年間通学し、志望する大学から合格通知をいただいたという経験がありますか。」という質問に対し、「はい。」と答えられる人は、全国でも数パーセントしかいない。つまり、君たちが川島中高に入学すれば、価値のある6年間で過ごすことが保証されているということだ。
事実、私は川島中高での経験のおかげで充実した大学生活を堪能している。川島中高では勉強はもちろん、現代社会を生きるために必要である「人間力」を自然と身につけることが可能だ。このことが私の母校の最大の魅力であると思う。君たちには川島中高で「自分流」を発見し、可能性を常に探してほしいと願っている。これからの人生をどう歩むか、川島中高で決定してみてもはどうだろうか。



校内合唱コンクール

保護者の感想より

- どのクラスも素敵な歌声で、とても感動しました。1年の締めくくりとしてよい行事であったと思います。これからも合唱コンクールを続けていただけたらと思います。子どもたちにとっても、友達との絆が深まったのではないかと思います。
- 各クラス、心を一つにした歌声は、とても胸に響き、本当に良かったです。3年生は、卒業前にとってもいい思い出になったと思います。今後も子どもたちの成長に期待しています。
- 混声の歌声、心地良く聴かせてもらいました。クラス全員で歌うのはいいですね。練習期間中、我が子も楽譜を持ち帰り、家でよく歌っていました。練習しているとだんだん歌えるようになりますし、みんなで合わせるのはやっぱり楽しかったようです。合唱コンクール、ずっと続けていただきたい行事です。ピアノ伴奏も良かったです。



●家庭教育研修委員会

家庭教育研修委員会は、毎年、PTAで模擬店を出し、文化祭で焼きそばとフランクフルト、体育祭ではアイスBOXの販売をしています。文化祭での子どもたちのバザーに負けないくらい、好評いただいています。販売の合間には、普段とは違った子どもたちの素顔が見られたり、保護者同士で楽しくおしゃべりをして、新しいつながりができたりと、大変良い機会となっています。

●研修・親睦委員会

研修・親睦委員会では、研修を通して会員相互の親睦を図ることを目的にして活動しています。市P連主催の球技大会や中高合同のPTA球技大会では、日頃の運動不足やストレスを解消しています。また、大学研修視察では、大学の見学だけでなく、往復のバスの中で、先輩の保護者から受験にまつわる様々なアドバイスをいただくなど、有意義な時間となっています。

●人権教育推進委員会

人権教育推進委員会は、毎年、人権教育講演会に参加しています。昨年度は、松村智広さんによる「あした元気になあれ」と題する講演でした。ご自身の実体験に基づくお話を、時折笑いやユーモアも交えながら、非常にわかりやすくご講演くださいました。差別の厳しさと、人の温かさについて、改めて深く考える機会になりました。



編集後記

「学校が楽しい。」と、毎日娘がにこにこして帰ってきます。元来のん気な娘ですが、毎日笑顔が見られるのは、親としてもうれしいものです。自分のことを思い返してみると、学校とは楽しい所であり、悩ましい所でもあったように思います。娘を毎日ウキウキと通わせてくださる学校の、何かお役に立てないか、そんな気持ちで今回「絆」の編集に携わらせていただきました。参加してみて、なるほど朗らかな委員の皆様と熱心な先生方との作業は毎回和気あいあいとした楽しいもので、こうして県立川島中学校の校風はできあがっているのだと実感しました。「川島中学校って楽しいね。」委員会から帰って私が必ず言う言葉に、娘がニヤリと笑います。

企画・広報委員長 住友 敏子



「やっぱり、この学校を選んでよかった！」

1年生の保護者より

- 小学3年のとき、息子から川島中高を受検すると宣言してきました。その後、6年生の夏、入学説明会に参加した時、楽しそうに授業を受けている生徒の皆さんや、熱心に教えている先生の姿を見て「ここしかない。最高の場所だ。」と親子で実感しました。入学してから、毎日楽しそうに小テストのことや、宿題のこと、先生のことなどを話してくれます。中学時代は一番難しい時期で、親子の会話が減ると聞きますが、全く心配ないですね。子供が全て教えてくれます。子供と一緒に成長できることを嬉しく思います。



- 「県立川島中学校に行きたい！」という息子の言葉を聞き、入学説明会に参加しました。ネイティブのような発音の英語。生徒と楽しくやり取りしながら進む社会科。和やかな学校の雰囲気を見て、「ここは楽しく学べる学校だな。」と感じました。今、息子は部活動をしながら学校生活を送っています。勉強と両立させることは少し大変なときもありますが、「学校は楽しい。」という言葉を知ると、「やっぱり、この学校を選んでよかった。」と思います。

- 県立川島中学校に入学後、部活動に入部し朝練・勉強・部活動と忙しそうに毎日を送っています。ある日、学校生活について尋ねると「小学校より中学校のほうが忙しいけど、毎日めちゃくちゃ楽しいよ。」という返事があり、息子は充実した学校生活を送っているのだと感じました。また、テスト前の質問タイムなどで、わからないところを熱心に先生方が補充してくれるので、子供も勉強がはかどるようです。これからも、勉強・部活動を両立しながら楽しく学校生活が送れるよう見守っていきたいと思います。

- きっかけは「県立川島中学校に興味ある？」と私から聞いたことでした。最初は興味半分、不安半分で、娘なりにいろいろ考えていたようです。授業見学会や入学説明会への参加を重ね、卒業生の保護者の方の話を聞いているうちに、娘の不安は消えていったように思います。入学への意欲と関心を持つてからは受験勉強にも自主的に取り組むようになり、無事に入学することができました。

先生方の熱心な指導や、共通の目的を持つ同級生と切磋琢磨する中で、日々成長する娘の姿が、親として驚きとともにうれしくもあります。これからも娘の成長を見守りながら、他人の力になれる人物になってくれるよう協力していきたいと思います。



「あこがれ・充実・夢・上昇」

1年生の声より

- 地元の中学校に行くのが当たり前の中で、私は県立川島中学校の受検を迷っていました。でも、「汽車通」「勉強熱心な学校」「新しい友だち」の3つの言葉に**あこがれ**、入学を決めました。中学校での生活は毎日が充実しており、「新しい友だち」もたくさんできました。また、バスケット部に入部したことで、優しい先輩に囲まれ、練習では笑顔がたえません。私の**あこがれ**ていた3つを全部手に入れた気分です。

- 小学生のとき、僕は夢中になれるものがありませんでした。でも、県立川島中学校に入学して音楽部に入ったことで、毎日が**充実**している自分がいます。中学校の先輩だけでなく、高校の先輩が身近にいてアドバイスをくれます。困難なことがあっても、“好きなことがあれば乗りこえられる”これが県立川島中です！

- 小学生のとき、国語と社会が大の苦手だった私を、県立川島中学校の授業が変えてくれました。「言葉の広がり楽しさ」や「歴史を学ぶことの奥深さ」を知ることで、自分の世界がどんどん大きくなったように思います。どの教科も、わからないことがあれば丁寧に指導してくれ、プリント補充もいただけます。まだ発展途上の頭ですが、**夢**にむかって頑張っています。

- 県立川島中学校に入学する前、授業見学会に参加しました。その時に「絶対、ここに入学したい。」と心の底から思いました。木造校舎の教室の中、パツと明るい雰囲気です。中学生のみなさんはどの人も真剣な授業態度でした。ここなら安心して学習できると感じたのです。入学した今、私の学力は確実に**上昇**しています。本当に県立川島中に来て良かったと思います。

「感謝」の気持ち

徳島県立川島中学校 PTA 会長 湯浅 基弘

子どもたちは家庭や学校、地域を行き来しながら生活し、様々な経験や活動を通じて学び、成長しています。

しかし、日々の生活が忙しく、疲れてしまっているといふ感謝の気持ちを忘れてしまいがちです。毎日誰かと関わって生きている中で、感謝することは本当に大切です。感謝することで人は成長できるといっても過言ではありません。本校には、その大切な気持ちを学び培うことができる環境があります。子供たちには、その恵まれた環境の中でさらに成長して欲しいと願うばかりです。

PTA 活動も、先生方、保護者の皆様との親睦の場であるとともに、我々保護者が子供たちと共に成長する場であると思います。

今後とも、有意義な活動となるよう努力して参りますので、本校 PTA 活動への積極的なご参加とご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。

心待ちにしていた

海外語学研修

(オーストラリア)



- 「私、オーストラリアに行ったら、積極的になれるかも。」と娘が言い出した時、正直耳を疑いました。コミュニケーションは苦手と断言し、1年前は語学研修に旅立つ姉を見て「海外なんて私には無理!」と言っていたのに……。

聞けば、語学研修の後、姉がお世話になったホストシスターがわが家にホームステイしてくれ、一気に異国が身近になり「自分も行ってみたい。」と思ったそうです。

語学研修ではホストファミリーに親切にいただき、人見知りの娘もコミュニケーションを深め「楽しかった!」と思える経験ができたようです。帰国後早速、英語を調べ、姉に教わりながらホストファミリーにメールする姿を見て、娘の世界が広がったことを感じました。

性格の違う2人の娘ですが、語学研修からそれぞれ良い影響を受けました。中学生のうちからこのような機会に恵まれたことは、本当に幸せなことだと感謝しております。

- オーストラリア語学研修は、県立川島中学校の目玉でもあります。

周囲の心配をよそにマイペースで能天気な息子は、叱咤激励を受けながらオーストラリアへと出発しましたが、写真に映った笑顔から、充実した日々を過ごしたことがわかりました。さよならパーティーでは、習字、狂言、カルタ遊び、阿波踊りと現地の方が興味を持ち、喜んでくれたようです。

オーストラリアでの2週間は、「伝える」ことの大切さと、すばらしさを実感できたようです。友達や先生にも恵まれ、最高の環境の中で貴重な体験ができた様子が息子の話から理解できました。語学研修での経験が、これからの息子の成長に良い刺激となることを期待しています。

事前学習、準備と先生方には大変お世話になり、その熱心さ、温かさに触れる度、本当に県立川島中学校へ入学して良かったと思います。



部活動に励むわが子へのエール “見守ってるよ”



- 「部活動は絶対3年間やる!」と言って入部したテニス部。ラケットの握り方やルールを全く知らなかった子供に、先生をはじめ先輩達が優しく指導してくださいました。今では放課後の部活動が待ち遠しいようです。テニスのルールはもちろんのこと、部活動を通して、人としても大きく成長したと思います。特に「礼儀」や「人間関係の作り方」は、社会人となったとき、必ず役立つと思っておりますので、途中で投げ出さず、3年間続けて欲しいと思います。「継続は力なり」として……。

- 息子は小学校に続いて軟式野球部に入部し、毎日、練習を頑張っています。学業との両立は大変だろうと心配していましたが、朝の練習のあとも「課題をやらなくては。」という意志を持って取り組んでいます。朝の練習にも積極的に参加をする息子を見て、今では頼もしく感じています。先輩や後輩達とも仲が良く、また、他校の友達もたくさんでき、充実した学校生活を過ごしているように思います。試合会場への送迎など、保護者間でも協力するようになり、野球を通して親子の絆も深まりました。これからも息子だけでなく選手の皆さんを温かく見守っていきたいと思っています。

- 「僕、剣道する。」と言い、兄の背中を追って入部してから、はや1年が過ぎました。幼少の頃はサッカーをしていましたが、何かを始めるのに理由などいりません。試合で負けたとき、稽古が辛いとき、弱音をかく息子に「まだ、まだじゃ!」と喝を入れ「それでも続けるあんたは偉いよ。」と背中を叩いて送り出します。先輩、同級生、そして顧問の先生に感謝し、一本一本打ち込んでほしいと応援しています。今では、剣道談義に花を咲かせる2人の息子の笑顔を見て、何故か顔がにやける私です。

頑張れ息子よ! 負けるな息子よ!



4期生から後輩へ



「川島中高で6年間過ごして」

徳島大学 医学部 医学科

- 私は川島中高で充実した6年間を送ることができ、志望していた大学の医学部にも入学でき、楽しい大学生活を過ごしています。中学校では、日頃から高校生との交流を図れるということや、オーストラリア語学研修をはじめとする様々な体験ができました。私は高校に進学してからも、先生方の熱心な指導や仲間のおかげで勉学に対するやる気を持ち続けることができました。それでも疲れてしまったときは、中学校でお世話になった先生方に会いに行くことで、勉強へのモチベーションを上げることができました。

多くの先生方や友人に囲まれ、価値ある体験ができる川島中高で学生生活を送ることができ、本当に良かったと思います。

「川島中高での6年間」

鳴門教育大学 学校教育学部 技術科教育コース

- 川島中高での6年間は、私に多くの経験と将来の指針を与えてくれました。中学校、高校と生徒会長の役職を務める経験や、野球部のキャプテンという重責をになう経験は、自分自身の最大の財産となっています。もちろん大変な時期もありましたが、中学でお世話になった先生方の支援や友人の優しさに何度も助けられ、やり遂げることができたと感謝の気持ちでいっぱいです。

また、高校生と同じ敷地で過ごした中学3年間は、他の地元の中学では味わえない良さがありました。部活動や勉強、様々な場面で高校生の姿を見ながら生活することは、中学生ながら強い刺激を受けたのを覚えています。

多感な青春時代、私自身に多くのものを与えてくれた川島中高。いつか教師として帰り、恩返しをするためにも、私は今大学で自己研鑽に努めています。

編集後記

「絆」の編集は3回。特に楽しいのは2回目。集まった原稿をチェックしたり、掲載用の写真を選んだりする時間です。生徒たちの様々な行事で見せる表情を眺めながら、「みんな学校生活を楽しんでいるのね。」と、こちらまで楽しい気分になれるからです。

保護者の立場というより、この時ばかりは学生時代に戻った気分で「この写真いいね。」と言い合ってこの「絆」ができています。

そして、こうやって編集後記を書かせていただき、感激もひとしお……は大げさですね。保護者の方々、先生方の思いを代弁できましたでしょうか? お疲れ様。そしてありがとう!!

企画・広報委員長 足立 朋子



「僕も私もイケてる！」

1年生の保護者より

- 「僕も県立川島中学校に行きたい。」高校1年生の姉から、よく話を聞いていたようで、息子は小学4年生の頃からこのように言っていました。中高一貫教育校での勉強や生活は大変で難しいのではないかと感じていましたが、先生方がとても親身に寄り添って導いてくださっているおかげで、何事にも積極的に自信をもって行動できるようになりました。学校行事などを通じて、高校生と交流できるのも、よい刺激を受けているようです。毎日楽しくて会話が途切れることがないほどに、一日の出来事をいきいきと話してくれます。そんな息子の成長をこれからも見守っていきたいと思います。
- 「おれ、最近イケてる?」「うん、イケてるねえ。」人との関わりが不器用で要領のあまり良くない息子と、私たち家族の、入学してからしばらくたったある日の会話です。何かに打ち込むというよりは、家でのだんまりが大好きな息子が、県立川島中学校での生活についていけるのか、心配ばかりしていた私たちでした。けれど、今では、「おれ、イケてる。」と、毎日を精一杯過ごす息子を頼もしく感じるこのできる日々、感謝しています。



- 我が家の前は、県立川島中学校の通学路です。毎朝、「おはようございます。」と、大きな声で挨拶をしてくれます。とても気持ちよく、きっといい学校なんだと、ずっと思っていました。

ある日、息子が、「県立川島中学校に行きたい。」と、言ってきました。授業見学会や説明会に参加し、息子も入学への更なる意欲をもち、無事に入学することができました。毎日、勉強・部活動と、忙しそうに学校生活を送っています。友達や先生、学校での生活を楽しそうに話してくれる、そんな息子の姿を見て、とてもうれしく思います。先生方の熱心な指導のおかげで、心身ともに成長する息子を楽しみに見守っていきたいと思います。

- 「姉ちゃんと同じ県立川島中学校に行きたい。」娘が、突然言い出したのは、小学4年生のときでした。その後、進路に悩んだ末、「やっぱり県立川島中に行く!」と気持ちが固まったのは、入学説明会が終わった頃でした。遅ればせながら勉強に励み、何とか入学することができて今日に至りますが、毎日充実した日々を過ごしているようです。

突然のけがで、YMCA行きに暗雲が立ちこめた時、担任の先生はじめ、諸先生方の計らいで、無事参加することができました。帰ってきた娘が、「とても楽しかった。行けてよかった。」と喜ぶ顔を見て、この学校を選んでよかったとしみじみ感じました。これから、学校生活を送る中で、人として成長していく娘を見守っていきたいと思います。

「輝き・安心・前向き・誇り」



1年生の声より

- 小学6年生のとき、授業見学会に参加しました。最初に思ったことは、校舎内がとてもきれいだということです。歩く度に、木の温かみを感じ、「木造校舎っていいな。」と思いました。教室の中も新しく感じられ、今までこの教室を使ってきた人たちが、ていねいに掃除をし、大切に使ってきたのだと思いました。真剣に先生の話を聞き、一生懸命授業を受ける先輩の姿も輝いて見えました。今、改めて、ここに入学できたことを心からうれしく思います。
- 私は、県立川島中学校に入学して、毎日楽しいです。それは、仲のいい友達もでき、先輩方がとても優しいからです。最初は、小学校との違いに戸惑ったこともありましたが、そんなときは必ず、クラスの友達や先生方が教えてくれるので、すぐに学校生活に慣れることができました。先輩達が優しく接してくれるので、**安心**して部活動にも参加することができます。「こんなに楽しい毎日でいいのかな。」と思うほどです。
- 県立川島中学校に入学して、僕はとてもよかったと思っています。新しい友達や先生方と出会い、小学校にはなかった部活動にも入り、毎日がとても充実しています。授業はおもしろくて分かりやすく、集中することができます。先生方が、熱心に教えてくださるので、授業を受けるのが楽しくなりました。小学校のときとは違う刺激がいっぱいで、何事にも精一杯頑張ろうと、**前向き**になれる自分がいます。
- 授業見学会に参加して、「この学校で勉強したい。」と思うようになりました。その時見た先輩方の表情が、とても明るく、楽しそうだったからです。実際に入学してみて、落ち着いた環境で、しっかりと学習に取り組むことができるこの学校は、とても良い学校だと思っています。テスト前に、「質問タイム」があることで、苦手なところも分かるようになります。私は、この県立川島中学校に入学したことを**誇り**に思います。

経験は財産

徳島県立川島中学校 PTA会長 井上 理

中高一貫教育って何だろう、どんな経験ができるのだろうか等々、県立中学校の開校により進学先の選択肢が広がったことから、親子で将来を考え、子どもたちは本校に入学しました。そして、新しい友達、恵まれた教育環境、多彩な部活動、にぎやかな学校行事、さらには学校外でも、二千人で歌うベートーヴェン「第九」演奏会、郷土の歴史と文化に触れる「あわっ子文化大使」、海外研修等に参加し、豊かな経験を重ねています。これからも、将来に役立つ経験を、中学校生活で重ねてほしいと考えています。

学校応援団であるPTA活動は、子どもの成長を見守り、先生方と情報を共有できる、保護者としても貴重な機会となりますので、皆様のご協力をお願いします。

絆を魅せる中高祭

● 川島中高祭は、昨年より一般公開となり、「燃え上がる川島魂 絆を魅せる中高祭」というテーマのもと、たくさんの方でにぎわいました。中学校だけでなく、高校、または学校をこえた交流の場となり、子どもたちにとっても良い刺激になったのではないかと思います。演奏会や催し物（展示・模擬店・バラエティショー）など、どれも生徒が一生懸命企画したものばかりでした。模擬店では、接客の対応も良く、笑顔でてきぱきと役割をこなしていました。そして、素直に感謝の気持ちを伝える子どもたちが、とても愛らしかったという印象が残っています。子どもたちには、このような経験を今後の学校生活にも生かし、常に感謝の気持ちを忘れず過ごしてほしいと思います。

来年度も、川島中高祭に参加し、子どもたちの成長を感じながら、一緒に楽しませていただこうと思っています。



● 体育祭の入場行進では、各クラスの特色を生かしたTシャツを着て、パフォーマンスが行われ、入念な準備をしたことがうかがえました。競技が始まると、大きな声を出し全速力で走りまわり、どの生徒もいきいきとしていました。その様子を見て、本当に学校生活が充実しているのだなと感じました。プログラムが進み、体育祭が盛り上がるにつれ、中学高校と一体感が生まれ、一丸となって楽しんでいるようでした。これは、たくさんの先輩に見守られ、一緒に競技したり応援したりしなければ経験できないことだと思いました。中高一貫の川島でなければできない、貴重な体験だと思います。良き伝統を受け継ぎながら、来年の体育祭も盛り上がることを期待しています。



世界に広げ とくしま歓喜の歌 プロジェクト ～ 心をひとつにして歌った「第九」～



● 今年の1月に、「世界に広げ、とくしま歓喜の歌プロジェクト」というテーマで、ベートーヴェン「第九」演奏会が開催されました。世界的に有名な秋山和慶氏を指揮者として設立された「とくしま記念オーケストラ」と共に、県立中学校3校の生徒も合唱しました。演奏の途中で、板東俘虜収容所のドイツ人捕虜と地域の人々との交流の中で「第九」が演奏されたという映像が流れました。戦争という悲惨な歴史の中でも文化交流が行われたことの大きな意義を、徳島の子どもたちが知り、次の世代へと交流を広めていくためにも、すばらしい演奏会だったと思います。二千人以上の参加者による合唱は、大迫力でした。子どもたちの歌声が強く心に響き、とても感動しました。

● 「今、『第九』の練習をしてるんよ。」と、入学後の娘から聞いた時は、こんな壮大なプロジェクトとは思わず、「練習がんばって。」と、声をかけていました。会話から、練習の時間も度々あり、疲れがたまっていくかと思いましたが、愚痴をこぼすこともなく、楽しそうにドイツ語の歌詞を口ずさむ娘を見て、保護者としても本番を心待ちにしていました。いざ本番、下の娘と会場で観ることができたのですが、他校の学生、大勢の社会人、プロの音楽家の方々と、迫力のある演奏の中、県立川島中学生が堂々と歌っている姿に、とても感動しました。ドイツ語を覚えるだけでも大変だと思うのですが、長時間美しい姿勢で舞台に立つ子どもたちを観て、成長を実感することができました。

● 「とくしま“歓喜の歌”プロジェクト」に参加することを聞いた時、初めは、どんな規模で、どのようになるのか、全く想像ができていませんでした。本番当日、二千人の合唱団の中に我が子を見つけた時は、壮大なプロジェクトに参加しているのだと感動しました。

本番までの数か月、初めて耳にするドイツ語に戸惑いながらも、「テストに出る。」と必死に覚えていました。一般参加の方たちとの合同練習は大変な様子でしたが、休まず参加し、がんばっていました。私にできることは何もなく、ただ、「プロのオーケストラの演奏で歌うなんて、なかなかできない貴重な体験。」と声をかけるくらいでした。「県立だからこそできる体験」と、誇りをもって歌ってもらいたいと伝えました。

「第九」は、徳島が世界に誇るべき平和の象徴です。初めは意味も分からず覚えた歌詞も、歌う度に理解が深まり、そのすばらしさ、平和の尊さを真に感じとってもらえたらと願います。



今年度も本番に向けてドイツ語で猛特訓中



5 期生から後輩へ



「友と師に恵まれた川島中高」

広島大学 理学部 物理科学科

● 幸せな時間ほど体感が短いと言いますが、その言葉通りあっという間に過ぎた6年間でした。卒業した身で振り返ると、友と師に恵まれた川島中高を母校と言えることに、改めて誇りを感じます。

中高合同での文化祭や体育祭をはじめ、「先輩から学ぶ」という高校生から直接話が聞ける機会や海外でのホームステイなど、川島中高では、中学生のうちから広い世界に触れ、将来の進路選択の幅が広がる機会がたくさんありました。中学校で培った土台は、高校での主体的な学びや活動はもちろん、ひいてはこれからの人生の広がりにもつながっていくと思います。

受験に際しても、高校の先生方には熱心なご指導を、中学の先生方からも温かい応援をいただき、夢への第一歩を踏み出すことができました。本当に感謝しています。

「川島中高だからできたこと」

徳島大学 理工学部 理工学科 社会基盤デザインコース

● 「川島中高でよかった。」この思いは大学に入学した今、さらに強く感じるようになりました。川島中高で経験したことは、どれもかけがえのない思い出です。私の中での1番大きな経験は中学3年生の夏休みにオーストラリアへ語学研修に行ったことです。普通なら高校受験で忙しい時期なのに、このような経験ができたのは中高一貫校ならではの、進路を決める上でも大きな刺激を受けました。また、高校生と同じ校舎で生活していると高校生の様子を知ることができ、何年後かの自分の姿を想像することができました。高校生になっても中学校の先生方が声をかけてくださり、大学に合格した時はすごく喜んでくださったことがうれしかったです。6年間見守ってくださった先生方にとっても感謝しています。ありがとうございました。

編集後記

長男が県立川島中学校に入学してから早くも6年。半年後には、下の子が中学校を卒業します。長く「絆」の編集に携わらせていただき、年3回の編集の流れはある程度分かっていたものの、今年初めて進行役を務めさせていただき、例年の和気あいあいとした雰囲気作りができるかと不安でした。けれど、まだお子様が入学したばかりの時期から参加してくださった1年生の委員の皆さん、積極的に意見を出してくださった2・3年生の委員の皆さん、いつも細やかなところまで、ご準備くださった先生方のご協力のもと、こうして無事「絆」が届けられますことに感謝いたします。また、進行役としても、貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

企画・広報委員長 工藤 直子



「絶対行きたい。だから、頑張る！」

1年生の保護者より

- 「県立川島中学校に行ってみようかなあ。」小学校でいただいた県立川島中学校の見学会の案内を見て、娘が話したことが始まりでした。見学会に行ってみただけなのかなと、親として軽く受け止めていましたが、見学会に参加した帰りの車中で、「私、絶対行きたい。だから、頑張る。」と、自分から積極的に話す娘がいました。

中学校に入学したときは、同じ小学校の友達がいなかったため、不安がっていましたが、さまざまな地域からの新しい友達が日に日に増えていき、今は学校生活を楽しんでいるようです。「私、地元の中学でも良かったかもしれないけど、それ以上に県立川島中学校に入学して良かったと思う。」という言葉聞き、日々成長していく娘の姿をうれしく感じています。そんな娘をこれからも見守っていきたいと思います。

- 毎日、授業に部活動にと忙しいはずなのに、「学校に行くのは楽しい。」と言う娘。受験を乗り越えた自信からか、以前よりもいろいろなことに積極的になったと思います。課題についても、与えられたことをこなすだけでなく、自分が納得するまで取り組む粘り強さも身につけてきたようです。クラス以外にも友達ができ、部活動では中学だけでなく高校の先輩にも教わることができる環境に身を置くことができています。娘は勉強以外でも大切なことを学び、日々成長しているようです。



- 「将来の目標のために、県立川島中学校で勉強を頑張りたい。」娘は小学6年生の頃、自分の目標を決めて、こう言い出しました。通学は遠いけれど、勉強に集中できる環境だと聞いていたので、娘の選んだ道を応援しようと決めました。

入学後は、それぞれ目標に向かって共に頑張る仲間の良い刺激をもらい、忙しいながらも充実した学校生活を送っています。先生方の熱心な指導や切磋琢磨しあえる仲間がいる環境の中で、さまざまな経験を積み、心身ともに成長していったほしいと思います。

- 二歳上の長女が県立川島中学校に入学して初めての参観日。一緒に授業を参観した次女は、このとき、「私は県立川島中学校を受検する。」と言いました。以後、受検の意志は変わらず、県中生となった今、学校生活は楽しいとのことで、帰宅後姉妹で大笑いしながらその日の出来事をよく話しています。テストのこと、給食のこと、友達とのこと、先生との会話など、内容はさまざま、母親として聞いていて楽しく、学校生活が充実しているのが分かります。

勉強は大変だと思いますが、これからも熱心な先生方のもと、仲間と努力する大切さ、充実感、達成感を味わいながら、心身ともに成長する娘を見守っていきたいと思います。



「笑顔・喜び・夢・充実」

1年生の声より

- 私は、入学者募集説明会のとき、中学校の校舎を見学しました。木造で、教室に入るととても温かみを感じました。体育館で流れている映像には、先輩方の楽しそうな笑顔、勉強熱心な姿が映し出され、それを見たとき県立川島中学校に入ろうと決意しました。

今は音楽部に入り、高校生と一緒に活動しています。年の離れた先輩と交流できることも、中高一貫校の良さだと思います。この学校に入学して、本当に良かったと思います。

- 私は県立川島中学校に入学したことを誇りに思っています。合格通知が届いたときは、家族と喜びの涙を流しました。受検までの勉強はとても大変だったけれど、頑張った分だけ結果はついてきます。

先輩方も優しい人ばかりで部活も楽しいし、クラスの間みんなも明るくて楽しいので、毎日学校が楽しみです。学習は落ち着いた静かな環境の中じっくり取り組むことができるので、勉強もだんだん好きになってきました。

- 私が県立川島中学校に入学した理由は、将来の夢をかなえるためです。とても静かな環境で勉強ができるので、夢をかなえるにはぴったりの学校だと思いました。

入学してみて、改めてすばらしい学校だと思っています。こんなに授業に集中できるなんて、最高です。テスト前には質問タイムがあり、先生方に質問することができます。普段の授業はもちろん、分からないところがあると、各教科の先生方が熱心に教えてくださります。分からないところにずっと悩むことがないので、安心して授業を受けることができます。

- 私はこの県立川島中学校で、良い人間関係を築くことができています。たくさんの新しい友達ができ、毎日が充実しています。休み時間には、笑いながら話をするほど、仲良くなることができました。授業の班活動でも、いろいろな子とさまざまな意見を出し合うことができるので、理解が深まる、とても楽しい時間になっています。また、行事などで違うクラスの子や先輩方と話すこともできます。最初は不安な気持ちもありましたが、今はすべて喜びに変わっています。

子供たちの成長を見守る

徳島県立川島中学校 PTA会長 菊川 公美恵

本校の生徒たちは、日々、勉強、部活動、学校行事、校外活動にと、忙しくも充実した楽しい毎日を送っています。

子供たちは恵まれた環境の中で、教科の学習だけでなく、生きていくうえで大切な知識を習得し、目標をもって粘り強く取り組むことも学んでいます。そこには、子供たちにとって大切な仲間との出会いがあり、その仲間と共に、時には高校生との交流を通じて、豊かな経験を重ねています。

本校PTAは、先生方と情報を共有しながら、子供たちを見守り、学校生活を盛り上げていけるように、会員の皆様が参加、協力を惜しまず努力しています。皆様の積極的な御参加と御協力をよろしくお願いいたします。

成長し続けるわが子へのエール “見守ってるよ”

2年生の保護者より

- 去年の春、入学してしばらくは、中学生としてどう成長していくのか想像もつきませんでした。でも、県立川島中学校に入学し、先生や友達にも恵まれ、いろいろな刺激を受けながら多くのことを学んでいるようです。行動力もつき、考え方なども、小学生の頃とはずいぶん変わってきました。年齢とともに体の成長は目に見えて分かるけれど、そうではない内面の成長がふとした場面で感じられたとき、親としては本当にうれしいものです。これからも、勉強に部活動、友達との関わりの中で、いろいろと経験しながら頑張っていく娘の成長を楽しみにしています。



- 娘は入学当初、テニス部に入るか、美術部に入るか悩んでいました。親の私としては、運動部に入り、心と体を鍛えてほしいと思っていたのですが、娘の気持ちは少し美術部に傾いていたようです。娘は、「美術部土日休みらしいけん、妹と二人で家の留守番できるよ。」と言ってきました。土日関係なく仕事をしている私としては魅力的な話でしたが、私の「ほな、勉強がようけできるな。」の一言で、テニス部に入る意志を固めたようです。そんなに勉強が嫌なのかな、と思っていたのですが、何だかんだ言いながら勉強も娘なりに頑張り、一年生の終わりには「努力賞」をいただきました。部活動は娘の中で、いろいろな葛藤がありながらも辞めたりせず、今年は新入生を迎え、先輩としての自覚が少しずつ芽生えているようです。甘えん坊だった娘が成長していく姿を、これからも温かく見守り続けたいと思います。



心待ちにしていた

海外語学研修 (オーストラリア)



- 「オーストラリアに行きたい!」という、中1のときの夢がかなったのは中3の夏でした。入学してから海外語学研修があることは知っていましたが、まさか本当に息子が行くことになるとは思っていませんでした。飛行機も初めて海外も初めての息子に、親は少々不安でしたが、本人は、「大丈夫。大丈夫。」といったって余裕でした。けれども、準備が整ったのは、出発当日でした。

息子のいない2週間、心配もあり少し寂しくもありましたが、一日の終わりに送られてくる引率の先生からのメールで子供たちの様子も分かり、安心しましたし、楽しみでもありました。

帰ってきた息子の笑顔を見たら、充実した2週間を送れたことが分かり、語学研修に参加できて良かったと思いました。この研修は、息子にとって得がたい経験となりました。ホストファミリーと先生方に感謝しています。

- 海外語学研修に参加することを息子は入学当初より心待ちにしておりました。その反面、私たち家族は初めて外国に行かせる不安もありましたが、息子の意欲的な姿を見ると、その気持ちも段々と薄らいでいきました。帰国後、息子は2週間の生活について次から次へと尽きることなく話をしてくれました。特に、学校生活は楽しかったようで、休み時間にはサッカーやバスケをしたこと、授業に参加したこと、遠足に出かけたことなど、笑顔で話してくれました。また、英語が十分に話せず困っている時に知合った学生に助けてもらったこともあったようです。学生やホストファミリーとの関わりは何よりも大切な思い出になったみたいです。

この機会を通して、新たなことに挑戦する気持ちがより強く感じられるようになりました。周りの人への感謝の気持ちも伝えられるようになりました。貴重な経験を、今後の人生に生かしてほしいと思います。



6期生から後輩へ

「大きく成長できた6年間」

広島大学 文学部 人文学科



- 卒業した今、振り返ってみると、川島中高で学んだことや体験したことは、私にとって良き思い出であり、貴重な時間であったと強く実感しています。

中高合同の文化祭・体育祭や部活動など、中高一貫校ならではのさまざまな楽しい経験ができることが川島中高の魅力です。また、先生方も生徒と常に真剣に向き合ってくださいるので、受験や語学研修など、自分が大きく成長できるチャンスをつかみ、挑戦することができます。これらの経験を積み重ねたからこそ、私はここまで大きく成長できたのだと思います。私の夢への挑戦を応援し、背中を押してくださった先生方には感謝してもしきれません。川島中高で優しい仲間や先生方と6年間を過ごすことができ、本当によかったです。

「川島中高だからこそ」

東京外国語大学 言語文化学部 言語文化学科 中国語コース

- 私にとって川島中高とは、新しいことに挑戦する機会をたくさん与えてくれる学校でした。普段の授業や部活動、文化祭・体育祭のような学校行事……川島中高には、一人一人が自分の興味や目標に向かって進んでいける環境があります。新しいことに挑戦するということは少なからず勇気のいることですが、どの生徒も先生も挑戦する人を応援し、支えてくれました。消極的だった私も、川島中高で変わることができました。授業で手を挙げられるようになった。分からないことは先生に質問するようになった。挨拶が自分からできるようになった。オーストラリアでの語学研修に参加した。生徒会に入った。挑戦した経験が、成長の糧となり、思い通りにいかないときも自分を支えてくれる自信になりました。川島中高を選んでよかった。川島中高での6年間を終えた今、そう思います。

高校説明会を聴いて

3年生の保護者より

川島高校進学説明会に参加しました。平成27年度入学の息子が大学受験する2020年から、思考力・判断力・表現力重視の新入試となります。どうなるのかと不安はありますが、説明会で、高校では少人数での選択授業で、より高度な演習と細やかな指導がなされていることを知りました。また、県立川島中からの進学者は数学の先取りで効率よく高校授業が進むことが分かり安心しました。英検取得に向けてのサポートも十分されているようです。また、驚いたことに、高校での国公立大合格者の通塾率は10%程度だそうです。年々国公立への進学者は増加しています。これは、6年間の中高一貫教育を通じて、細やかな指導、対応をしていただけたからだと思いました。

編集後記

広報委員の一員となって三年。この委員会に参加したいと思ったのは、思春期真っただ中の子どもと一緒に中学生生活を過ごしたいと思ったからです。

「絆」の編集では、企画から原稿のチェック、写真を選ぶ作業などをします。その中でも、私が一番楽しいと思っていたのは企画です。先輩方が作られてきた「絆」のかたちを残しながらも、新しい「絆」が生まれる瞬間に、広報委員の一員として携われたのだなあと感じました。

すてきな「絆」を編集できたのは、準備していただいた先生方や委員の方々の御協力のおかげです。進行役としては、十分な役割を果たせなかったかもしれませんが、今回もすてきな「絆」が完成しました。お世話になりました。

企画・広報委員長 浦川 涼子



楽しく充実した学校生活を満喫☆

1年生の保護者より

- 我が家の近所には県立川島中学校に通っている先輩がいます。娘は、小学生の頃から、川島中高祭に誘ってもらい、県立川島中学校の楽しさを実感していました。また、先輩から、「楽しい学校だよ！新しい友達がたくさんできるよ！先生も優しいよ！」と学校の良いところを教えてもらい、県立川島中学校に行きたいという気持ちが強くなりました。

受検を頑張り、無事入学できた今、先輩の言ったとおり楽しく充実した学校生活を満喫しています。娘は県立川島中学校に入学したことで日々成長しており、親としてもうれしい限りです。

- 「県立川島中学校に行きたい。」小学6年生の息子が話したことが始まりでした。県立川島中学校の説明会に参加し、将来のためにこの中学校に入学したいと思ったそうです。「中学校受検合格」という明確な目標が息子を変えました。息子は受検勉強に意欲的に取り組み、無事入学することができました。そのことが、本人の自信につながっていると感じています。

今は、勉強や部活動、友人との関わりを通し、忙しいながらも充実した学校生活の中で、自主性とともに社会性が身についてきたと感じています。これからも、多くの経験を積み、心身ともに成長していったほしいと思います。



- 県立川島中学校を受検することを考え、説明会に参加した際、校舎の中も見学させていただきました。温かみのある木造の校舎で、廊下にはたくさんの写真や研究発表等が貼られていました。気軽に質問もでき、心配していた宿題のことを尋ねました。先生は、正直に、「宿題は多いです。最初慣れるまではしんどいと思う子もいるでしょう。」と……。大丈夫かな、と心配になりましたが、「慣れてくる頃には、宿題の意味ややり方もわかって、勉強する力がついてきますよ。」と話してくださいました。

入学して5ヶ月半の今。宿題の量にも慣れ、「今日は英語と数学にしよう。」と、自分で考える力もついてきたように感じます。毎日、自転車で30分の通学。授業に部活動に宿題。「大変だけど、学校が楽しい。」と話す子供を見ると、勉強だけでなく、楽しい学校生活が過ごせる環境をつくってくださるこの学校を選んでよかったと思います。

- 入学して間もない頃は、子供も親も不安と期待と両方の気持ちがあり、どちらかというと不安のほうが大きかったかもしれません。しかし、今では、子供が学校生活にもずいぶん慣れ、毎朝、「行ってきます。」と元気に家を出ていく姿を見られるようになり、親の私もうれしく思っています。

まだ、不安と心配はありますが、学校生活を送るなかで成長していく子供を、これからも見守り、応援していきたいと思っています。子供の成長する姿を見られることは、親の私にとって喜びであり、楽しみでもあります。

一生懸命ってかっこいい!!



1年生の声より

- 私は、4年生のとき、この学校を受検すると決めました。県立川島中学校に通う姉の影響が大きかったと思います。毎日、友達や先生のおもしろい話を、姉から聞かされていました。楽しそうに話す姉を見て、私はいつからか、「いいな。」と思うようになりました。「この県立川島中学校に入りたい。」と思い、努力した結果、今ここにいられることが幸せです。

- 県立川島中学校の受検に合格するため、小学6年生の1年間は、とても頑張って勉強しました。自分の手元に合格通知が届いたときは、努力が報われて本当にうれしかったです。県立川島中学校の生徒になると思うと、とても誇らしい気持ちになりました。実際に入学すると、テストや部活動など、忙しい毎日ですが、充実していて時間が過ぎるのがとても早く感じます。

- 小学6年生のとき、見学会に参加しました。先輩方が廊下ですれ違う度に、「おはようございます。」とあいさつしていたので、すごいなと思いました。校舎も木造で、とても温かみを感じました。今は、部活動に入部して、先輩との関係もでき、放課後も楽しい時間を過ごしています。先輩はみんな優しく、安心できます。学校行事では、中学生だけでなく高校生の先輩方と一緒に活動できるものもあるので、これも中高一貫校の良さだと思います。

- 僕が見学会に参加して、先輩を見たときの第一印象は、「一生懸命勉強していてかっこいい。」というものでした。先生方も、わからないところがあったら最後まで熱心に教えてくださいなという印象でした。実際に生徒として授業を受けるようになって、難しいと思っていた授業も、先生方がおもしろくわかりやすい授業をしてくださるので、楽しく学んでいます。

- 最初は、「友達できるかな。」という不安がありましたが、周りの友達はとても優しく親切で、すぐに友達ができました。休み時間は、笑いながら楽しく話ができています。新しい友達との出会いも良かったと思っています。

- 県立川島中学校を受検した理由は、高校受検にとらわれず、6年間勉強に取り組めると思ったからです。定期テスト1週間前は、質問タイムという時間があり、わからない問題を直接先生に質問することができます。落ち着いた環境で仲間と一緒に学習できることに、感謝しています。

未来

徳島県立川島中学校 PTA会長 原田 隼史

人の一生はさまざまで、生き方もいろいろあります。

子供たちは小さいながらも、自分の将来を考え、県立川島中学校を選んで進学しました。人生の中でも、一つの大きな分岐点を通ったと思います。新天地へと足を踏み入れることは勇気がいったでしょう。

子供は成長し、善悪もわかり、なかなか本音を見せなくなっています。いつも笑っているから悩みがないわけではなく、弱音をはかないからといって辛くないというわけではないのです。

昨今の世界、日本の状況も刻々と変化する中で、子供たちが未来に不安を感じることもあると思いますが、自分でしっかりと見極めて、成長してほしいと思います。

本年度も県立川島中学校のPTA活動に、一人でも多くの保護者の皆様に参加していただき、一緒に子供たちの未来をつくっていきましょう。

成長し続けるわが子へのエール “見守ってるよ”

2年生の保護者より

- 入学当初、同じ小学校出身の友達もいない中、不安でいっぱいだった娘。しかし、友達や先生、先輩などにも恵まれ、小学生の頃と比べると、視野も広がり、考え方や行動力などがずいぶんと変わってきたと思います。

体験学習で阿波十郎兵衛屋敷を訪ねた日は、人形の動かし方や実際に人形を動かしてみても感じた難しさ、人形浄瑠璃の歴史などを家族に一生懸命話してくれました。徳島の伝統文化に触れ、その良さや継承することの難しさ大切さなどを、自分で感じたり考えたりすることができたようです。いろいろなことに積極的に参加し、充実した学校生活を過ごせていると思いました。

時には、うるさく言うてしまうこともありますが、毎日少しずつ、しかし確実に成長している姿を温かく見守っていきたいと思います。

- 小学校のときにドラムに触れ、基礎からしっかり習得したいという本人の意志で、中学校では音楽部に入部しました。練習では、ひたすら基礎の繰り返しで、帰宅後も練習中のリズムパターンを叩き、暇さえあれば自然と体がリズムを刻んでいるといった生活が日常となって1年が経ちました。高校3年生までの層の厚さから、演奏会等ではまだまだ一部のパートしかできませんが、自分のパート以外でも他の演奏者のサポートや演奏の準備、少し照れながらもダンスを踊り、奮闘する姿に成長が感じられました。

今はまだ土台作りの段階なので、ひょっとしたら挫折してしまうかもしれないと思うこともありましたが、本人は「音楽」の文字どおり、音を楽しみながら頑張っています。親の私も心配は吹き飛び、「力いっぱいサポートしよう!」という強い思いに変わりました。

こつこつと続ける日々の練習は、なかなか結果につながらず、やきもきすることがあるかもしれませんが、そんな経験も今後の自分を支える強さになるはずです。最後までやり抜いてくれると信じています。



燃えろ！平成最後の川島中高祭

3年生の保護者より

- 中学校最後の文化祭で、「ぷちぷちぽっぷん」という店を開いていました。ポップコーンの香ばしいにおいに誘われて立ち寄った人も多かったのではないのでしょうか。慣れない接客も、笑顔で楽しそうにこなす姿が印象的でした。体育祭の日には元気に帰ってきて、「3人4脚、32HR優勝したよ。」と、ほんのり日焼けした顔で話してくれました。川島中高祭では、どんな出会いや感動が待っているのか、子供たちの成長を感じながら、毎年楽しみに参加させていただいています。

- 降り続く雨も何のその。中高一丸となって開催された川島中高祭。「平成最後の中高祭 一瞬の輝きを最高の思い出に」のスローガンの元、子供たちが自分の役割を一生懸命に行う姿は、どの家族の目にも美しく、気持ちよくうつったことでしょう。一日一日大人になっていくことを意識し、残りの学生生活を有意義なものにしていくと信じています。また来年も、楽しく笑顔の見られる川島中高祭に参加させていただきたいと思いました。



- 今年の中高祭は、小学6年生の次女と友達、妹の子供を連れて見に行きました。子供たちはいろいろな所をまわり、楽しんでいました。もう帰ろうかという時、妹の子供の財布がないことに気づきました。すぐに中学校の先生にこのことを告げると、「うちの生徒はとても良い子たちばかりなので、必ず出てくると思いますよ。」とおっしゃいました。その言葉通り、財布はお金も入ったまま、本人のもとに返ってきました。先生と生徒の信頼度がとても高いことに感動するとともに、こんな学校に通っている長女はとても幸せだとしみじみと思いました。

- 今年の文化祭は、あいにくの雨となりました。時折、強まる雨に不安を感じましたが、いざ校内に入ると外の天候を忘れさせる、爽やかで活気に満ちた風が吹いていました。息子は、ポップコーンの模擬店を無事に終えて帰宅し、お客さんの「ありがとう。」の言葉がうれしかったようで、「おれ、人の役に立つって好きだな。」と満足そうでした。人生雨の日もあると思いますが、これからもしっかりと爽やかに乗り越えていくと期待できる一日となりました。

- 中学3年間で、初めて体育祭を見に行きました。到着した時は、午前中の綱引きからでした。大きな音で音楽をかけているのに、割れんばかりの応援や歓声で、ほとんど聞こえませんでした。一生懸命に綱を引き、綱引きが終わったあとの拍手と歓声、落胆の表情、そして笑顔。それぞれが真剣に競技に参加し、楽しんでいることがよくわかりました。高校生と合同で行う体育祭だからこそその盛り上がりやテンションの高さを感じ、見ている方も楽しくなる体育祭でした。



7期生から後輩へ

「一人一人が個性をもって輝ける場所」

香川大学 経済学部 経済学科



- 知り合いもなく、一人で入学したため、最初は大きな不安がありました。しかし、そんな私を川島中高は温かく迎え入れてくださいました。仲間ともすぐに打ち解けることができ、毎日が楽しくなりました。川島中高の良さは、中高合同の楽しい行事や部活動などいろいろありますが、最も素晴らしいのは、「一人一人が個性をもって輝ける」ということです。川島中高生は、良い意味でそれぞれの個性が強く、自分も相手も違う個性をお互いに受け入れることができます。私も、自分の性格や考え方を仲間が受け入れてくれたので、とても居心地が良かったです。また、川島中高生の卒業後の進路は幅広いですが、いかなる進路を希望していても、先生方は親身になって一緒に考えてくださいます。

ぜひ、皆さんも、一人一人が個性をもって輝ける川島中高に入学して、夢を叶えてください。

「川島中高での6年間」

徳島大学 理工学部 理工学科 応用理数コース

- 6年間を振り返ってみると、本当にあっという間で、先生や周りの友人にも恵まれ、とても楽しい日々でした。卒業した今、改めてとても素晴らしい6年間だったなと感じています。川島中高は、先生方が生徒と真剣に向き合ってくださり、頑張ろうとしている人やさまざまなことに挑戦しようとする人を支える環境があります。私は、語学研修に参加したのですが、川島中高に通うことによって、以前より自分の性格が積極的になったと思います。いろいろな経験をして、さまざまなことができるようになりました。川島中高は、魅力だらけだと私は感じています。私は、川島中高だったからこそ、自分が大きく成長できたと思っています。いつも助けてくださった先生方には本当に感謝ばかりです。私は、6年間川島中高で過ごして、「ここを選んで本当に良かった!」と思っています。

本当に良かった!!

6年生の保護者より

6年前の春、不安と希望を胸に県立川島中学校の正門を親子でくぐりました。入学してしばらくは、慣れない汽車通学などで、緊張の連続だったようですが、先生方に温かく見守られ、友達もでき、楽しい学校生活を送ることができたようです。中学3年生のときは、海外語学研修に参加することができました。初めての海外でのホームステイや現地の学校に通うという貴重な体験ができました。

高校生活も、戸惑うことなくスタートでき、数学の先取り学習など、きめ細やかな指導を受けることができました。進路についても、担任の先生が丁寧に熱心な指導をしてくださり、本人も頑張っています。いろいろな経験ができ、将来に向かって学ぶことができる川島中高という一貫教育校に入学できたことを、「本当に良かった!」と思っています。

編集後記

今回、「絆」のことがよくわからないまま編集に携わらせていただくことになり、不安に思っていたところ、受検を悩んでいたときに、食い入るように読んだことを思い出しました。また、その「絆」が、たくさんの人の協力のもとに作られていることに、とても驚きました。

明るい紙面に、生き生きと学校生活を送っている生徒の写真が多数掲載され、今年度もすてきな「絆」が完成しました。この「絆」が、多くの人の目に触れ、「県立川島中学校はいいね!」と思っていただけたら幸いです。「絆」の制作に関わっていただいた皆様に、心から感謝いたします。ありがとうございました。

企画・広報委員長 橘 佐知子



出会えた仲間と助け合い、絆を大切に

1年生の保護者より

- 小学6年生のとき、「県立川島中学校を受検したい。」と、娘が言いました。自宅から遠いこともあり、通えるのだろうかと心配ではありましたが、娘の意志は強く、オープンスクールに参加してからますますその気持ちは強くなったようでした。それからは、自ら塾に通うことを希望し、自分の決めた目標に向かって一生懸命勉強に取り組んでいたのも、合格通知を受け取ったときの達成感はとても大きかったと思います。

念願叶って春から県立川島中学校に入学した娘。勉強に部活動にと忙しい毎日ですが、クラスの雰囲気もよく、楽しく充実した学校生活を送っているようです。これからも、さまざまな経験を通して、いろいろなことを学び、心身共に大きく成長していったほしいと願っています。

- 県立川島中学校に入学した頃は、同じ小学校からの友達が少なく、子供も親も不安でした。しかし、1学期が終了した現在では、学校から帰ってくると、クラス以外でもできた友達のこと、部活動での先輩のこと、教科ごとに代わる先生方のことなど、いろいろな話を毎日のように楽しく話している姿を見て、親も幸せな気持ちになります。

勉強も大切だと思いますが、それ以上に、出会えた仲間と助け合い、絆を大切に、これからの中学校生活で、元気にたくましく飛躍してくれることを願っています。

- まもなく実施される大学共通テスト。これまで地元中学校進学以外考えていなかった我が家でしたが、知識・技能だけでなく思考力や判断力が求められ、これまでの受験勉強の常識が見直される変革期に向けて、少しでも余裕をもって準備できる環境をと考え始めたのが中学受検のきっかけでした。かといって、勉強一辺倒にならず、あるスポーツに夢中になっている我が子が先輩たちの活躍を見て、部活動でも最適な環境や指導者に恵まれればと思います。そして、学校行事や校外学習にもバランスよく取り組んでいける県立川島中学校への進学を親子共々目指すようになりました。

少人数の小学校で育った我が子は、さまざまな地域から通う多彩な友人から刺激を受け、視野が広がりよい影響を受けています。毎日部活動と宿題に忙しいながらも、充実感に満ちた我が子の少なからずたくましくなった姿を眺めて、この学校を選んで本当によかったと感じています。

- 県立川島中学校を意識するようになったのは、知人から話を聞いたのがきっかけです。我が家からは少し遠く、自転車通学は難しい距離。交通の便も悪いので、それまでは意識したことはありませんでした。しかし、オープンスクールがあると聞き、興味本位で参加してみることにしました。校内に入ると、温かみのある木造校舎がとても印象的で、授業体験や先生方からの説明を聞き、とても好印象をもちました。すると、子供が「この学校に通いたい。」と言い出しました。少し遠いことが心配でしたが、子供の意志を応援することにしました。

無事入学することができ、初めての参観日。内気な性格のため、「ちゃんと友達できているかな。」と心配しながら教室をのぞきました。すると、今まで見たことのない笑顔で、いろいろな友達と話している姿を見て、とても驚きました。勉強は大変そうですが、優しい先生やクラスメイトにめぐりあうことができ、この学校を選んで本当によかったと思います。学校生活は始まったばかりですが、中高一貫教育校の特色を生かして、いろいろな経験を積み、大きく成長していったほしいと思います。



県立川島中学校っていいな！

1年生の声より

- 私は小学校6年生のときオープンスクールに参加して、みんなが明るく楽しそうに授業を受けているのを見て、この学校に入学しようと決めました。実際に入学してみると、勉強は少し進むのが早くて大変なところもありますが、テストの前には質問する時間があったり、普段から質問できる雰囲気があったりするので安心です。気軽に相談できる先輩たちや先生方がいるので、とても楽しいです。
- 僕は小学生のとき、2回体験授業を受けました。そのとき、先生の授業の教え方がわかりやすく、落ち着いて勉強できると思いました。入学後の授業もおもしろくて、優しく教えてくださるのでとても楽しいです。新しい友達もたくさんできました。初めての部活動は、いい先輩ばかりでとても楽しいです。僕は、こんないい学校に入学してよかったと思っています。
- 受検をしたときは合格できるか不安でいっぱいだったので、合格通知をもらったときはこれ以上ない喜びがありました。入学するのが楽しみで、わくわくしていたのを思い出します。他の中学校ではできない、高校生との交流ができるのがいいと思っています。
- 私が県立川島中学校に入学して、特によかったと思うところは、テスト前に質問タイムがあることです。テスト1週間前から、毎日1時間ほど、各教科の先生にわからないところや理解のたりないところなどをたずねることができます。だから、テスト前に少しでも不安なところをなくして、当日テストを受けることができます。また、質問タイムは個別に教えてもらうことができるので、自分の苦手なところをなくすことができます。質問タイムは、県立川島中学校ならではのとてもよいところです。
- 私は中学生になって音楽部に入部しました。入部する前は、入部しようかどうか迷っていましたが、今となっては入部してよかったと思います。優しい先輩方に教えてもらいながら、日々練習に励んでいます。部活動に行くのが、毎回とても楽しいです。部活動のおかげで、同じ部活動に入った子とも仲良くなれました。高校生と一緒に活動しているので、高い目標をもって取り組むことができ、充実した時間を過ごしています。

成長

徳島県立川島中学校 PTA会長 瀧本 満

学生として過ごす時間は有限です。その限られた時間で、子供たちはどのような人生の一部を歩めるでしょうか。

県立川島中学校の学習や部活動では、すべての先生方が生徒一人一人の個性を認めたご指導をくださり、子供たちはそれぞれ目標をもち、個性と社会性の両立した成長をしています。

広い地域から生徒が集まることで、新しい友人関係も広がり、地元以外の地域の文化や伝統を知ることも他校にはない貴重な知識や経験となります。

学業だけが優れていても楽しい人生は送れません。魅力ある人として、趣味や得意分野での活躍など、自立に向け成長する子供たちの考えを認め、時にアドバイスを伝え、目標をもって進む努力が継続できるよう見守りたいものです。子供たちには自他に誇れる人生を過ごしてほしいと思います。

子供たちは日々成長しており、必ずしも大人が正しいということはありません。われわれ保護者も本校PTAの活動を通じて、子供たちと一緒に成長していきましょう。

頑張る息子にエールを込めて “見守ってるよ”

3年生の保護者より

- 学校行事の中で、子供の成長を感じた一つが職場体験です。体験場所は、息子が幼い頃に通っていたスイミングスクールでした。

息子が体験してよかったことの一つは、「人とのコミュニケーションは人への思いやりから始まる」ということに気づいたことです。相手が何を望んでいるのか、何が助けになるのかを考えて行動に移すことの大切さを学ばせていただきました。また、うまくいかなかったことに対して、あきらめずに自ら考え、工夫し、行動に移し、それがうまくいったときの経験は、息子自らの自信につながっていました。

学校生活とは違った目線で、社会の皆さんと接する職場体験は、息子にとって大きな自信へとつながり、息子の背中がちょっぴり大きく見えた瞬間でした。その背中をこれからも応援していきます。

- 「剣道も勉強も頑張りたい!!」と言って、地元の小学校からたった一人で入学した息子。令和の訪れとともに、息子の剣道年数は早くも10年になりました。こうして、中学校の3年間を文武両道で頑張ることができたのは、中高一貫教育校ならではの整った環境、指導力のあるすばらしい先生方、尊敬する先輩、同じ目標をもったたくさんの仲間に出会えることができたからだと思います。部活動を通して、体力面はもちろん、遠征や合宿などさまざまな経験をさせていただき、息子は一回りも二回りも大きく成長することができました。

『継続は力なり』夢に向かって、自分らしく剣道も勉強も欲張りに頑張る息子の姿に、母はエールを込めて、「いいね!」ボタンを押したいと思います。

『夢ナビ』に参加して

3年生保護者より

高校生対象の大学研究・学問発見のための国公立大 合同進学ガイダンス『夢ナビライブ2019』に参加しました。このガイダンスは、大学教授による30分の講義ライブを受講し、究めたい学問を見つけ、学べる大学と出会うことを目的としています。娘は今一番関心をもっている講義を受講できたようで、漠然と考えていた進路に向き合うよい機会を得られたのではないかと思います。早い段階で将来の目標が決まることで、大きく変化する大学入試制度に柔軟に対応できると思います。ガイダンス後には、親子で少しずつ進路について話をするようになり、娘の意識の変化が感じられうれしく思います。中高一貫教育校の強みだと先生がおっしゃっていたとおり、将来の進路を見据えた貴重な体験ができたことに感謝しています。



ホストファミリーより

- 「オーストラリアから来る生徒を受け入れたい。」という息子の思いが叶い、我が家にパースの生徒を迎え入れることができました。「楽しんでもらえるだろうか。一緒に楽しむことはできるだろうか。」という不安がありましたが、親しくなるまでに時間はかかりませんでした。彼と過ごした時間はあっという間に過ぎ、私たち家族にとって一生忘れない思い出になりました。最終日、彼が、「ありがとう。」と言い、握手して別れました。もう会えなくなると思うと、とても寂しくなりました。彼とはそれっきりになるのだろうかと思っていましたが、息子と今も連絡を取り合っています。今度、海外語学研修でオーストラリアへ行く機会があれば、参加して彼と再会したいと思っています。

このような貴重な経験をさせていただいた学校や先生方にはとても感謝しています。この学校に入学してよかったと思っています。

2年生の保護者より

- 4月、本校にオーストラリアのパースから、パースワールドフスクールの高校生がはるばる来校されました。彼らは、日本語を使って笑顔で自己紹介をしてくれました。いすごと立ち上がり笑わせる学生や、長髪の男子学生、髪をピンクのグラデーションに染めた先生などもいて、明るく自由な校風のように感じました。

歓迎セレモニーでは、2年生は『ライオンキング』から「サークル・オブ・ライフ」という曲を、色とりどりの動物たちになって合唱しました。これは、昨年度の文化祭で好評を得た演目です。夏休みに宿題も課題もそっこのけで、熱心に動物の製作や練習に通っていたことが思い出されます。

おもてなしでは、日本の伝統のひとつである剣道を一緒に体験しました。剣道部顧問の先生は、「……bamboo sword を use して……。」と、英単語を駆使してご指導されました。すり足リレーではエキサイトして、「I'm a winner! You're a loser!!!」と、張り合う人もいたそうです。きっと楽しい思い出をつくってくれたことでしょう。



8期生から後輩へ

「かけがえのない川島中高での6年間」

大阪市立大学 法学部



- 川島中高での6年間を振り返ってみると、本当にあっという間でしたが、たくさんの思い出がつくれたと思います。この学校には、個性豊かな人たちに囲まれて、互いに切磋琢磨しながら、自分のやりたいことをやり遂げることのできる環境が整っています。自分の目標を先生方や友人たちが応援してくれるため、心置きなく探求することができます。また、集まる生徒はどの人も個性豊かなので、相手との違いを理解して受け入れることの大切さを学び、たくさんの友人をつくることができます。私自身、高校卒業後でも交流のある友人ができました。長く付き合える友人をつくることのできるのも、魅力の1つだと思います。ぜひ、皆さんも6年間を通じてさまざまな経験や学習を重ねて、たくさんの友人とかけがえのない思い出をつくってください。

「夢を叶える最高の環境」

徳島大学 医学部 医科栄養学科

- 中学生の当時から振り返ってみると、現在の自分は、県立川島中学校で仲間たちと共に成長することができたからこそ、あるのだと思います。高校と連携した県立川島中学校のカリキュラムは、先取り学習のスタイルをとっており、授業時間も十分確保されています。さらに授業のみならず、放課後のサポートも万全なため、授業と課題だけで学習を完結させることができます。

勉強だけでなく、何にでも全力で取り組むのが県立川島中学校のよいところであり、文化祭に代表される行事は思い出深く貴重な経験であり、このような場で一生懸命になることが、勉強を頑張る原動力になります。

川島中高は、夢や目標を見つけ、それらを実現する力を身につけることができる学校です。勉強だけでなく、部活動、学校行事、ボランティアなど生徒が主体となって行う活動がたくさんあります。その経験は、のちに自らの強みにもなります。皆さんも自分の夢を叶える最高の環境である県立川島中学・高等学校で、きっと心から応援してくれる最高の先生や仲間に出会えるはずです。

編集後記

「絆」を作成するにあたり、何をどうすればよいのか全くわからず、最初は戸惑いました。でも、明るく和やかな雰囲気の中で各学年の委員の方々と意見を出し合い、よい案が浮かばず悩んだときは、先生方がさりげなく助け船を出してくださいました。生徒のことやこれから川島中高の生徒になるであろう子供たちの姿を思い浮かべながら、学校の魅力を少しでもわかりやすく伝えられるよう、皆で協力し合い作成しました。

原稿の一つ一つに、保護者や先生方、子供たちの思いが込められています。「絆」を大切に、すてきな学校生活が送れますように。

企画・広報委員長 兼子かおり



キラキラとした未来へ

1年生の保護者より

- 娘は長い間、進学先の中学校について悩んでいました。それでも県立川島中学校へ行くことにしたのは、現在3年生に在学している姉の後押しがあったからです。

姉は受験に悩む妹に色々な話をしてくれました。「確かに小学校からの友達は少なくなってしまうけれど、新しい友達はすぐにできるから大丈夫」「部活動の種類も多いし、やりたいことが必ず見つかるよ」「素敵な先輩がたくさんいるよ」と。昨年は文化祭に誘ってもらい、参加させていただきました。他にも姉から県立川島中学校のいいところを教わり、娘の気持ちも前向きになっていったようです。そして今年、無事に県立川島中学校に入学しました。今では姉妹で充実した学校生活を送っています。仲良く登校する姉妹の後ろ姿を見て、本当に良かったと思います。

- 受験を意識し始めたきっかけは、県立川島中学校にサッカー部ができたことでした。小学校時代同じチームでプレーしていた先輩が県立川島中学校のサッカー部に所属しており、誘ってくれたことで本人の意思が固まったようでした。また、自宅が学校に近い利点もあり、時間をフル活用できることも一因となったようです。

入学してからしばらくは、新型コロナウイルスの影響のため学校生活を送ることができませんでしたが、現在はほぼ通常の学校生活を送ることができるようになり、部活動や勉強に励んでいます。

部活動では、週に2回程度は上桜スポーツグラウンドで練習ができるという素晴らしい環境が整っており、中学校のサッカー部員は6名と少ない人数ですが、他校との合同練習や高校生のプレーを間近に感じられる機会もあり、いい刺激をもらいながらサッカーができることにとっても満足しているようです。

新しい友達もでき、クラスの雰囲気もよく楽しい学校生活を送っており、これからも色々な経験を積んで大きく成長してくれることを願っています。



- 受験を決めた当初、勉強に身が入らず、ただただ時間が過ぎていましたが、受験日が近づいてくるにしたがって、危機感から勉強に身が入るようになり、自主勉強の時間が増えました。もともと何かのために事前準備をするということが苦手だったので、良い経験になったと思います。

無事合格し、いざ入学となると世界的に新型コロナウイルスが蔓延し、学校に登校できない日が続き、「これだけ休んで勉強は大丈夫だろうか？新しい友達はできるだろうか？」など見えない不安に駆られてストレスを抱えていました。しかし、学校が始まると、気の合う友達とも出会うことができ、中学校生活の中で一番楽しみにしていた部活動にも入部し、忙しくはありますが現在は充実した日々を送っております。

小学生に受験というのは少し早いかとも思いましたが、『先を見据えて準備をする自主性』、『新しい出会いの中でコミュニケーションを図ろうとする積極性』この2つは確実に成長でき、本当に良かったと思います。

- 「お姉ちゃんたちが通っていた中学校へ行きたい。」と2人の姉を持つ娘が話すようになったのは小学5年生の頃でした。姉たちの楽しそうな学校生活の様子や勉強・部活動に頑張る姿を見て思うようになったそうです。

そしてこの春、中学校生活のキラキラとした未来への準備を進めようとしていた時、新型コロナウイルスにより世界中が大変な状況となりました。情勢は不安定でしたが、感染防止対策にご配慮いただいた中で入学式を行ってください、どれほど嬉しく感謝を抱いたことでしょうか。その後、学校が臨時休業となり、特に学習面や生活リズムにおいて心配でしたが、今では新しい友達もでき中学生としての自覚を持ち、新生活に慣れてきたようです。日々、笑顔で帰宅する娘に安堵しています。安心して通わせることができる学校なので、娘にとっても実り多き中学校生活となつてほしいです。これからの成長が楽しみです。

かけがえのない6年間

卒業生の保護者より

3人の子どもが県立川島中学校に入学しました。そして、今年の春、長男は6年間通った学び舎を卒業しました。卒業式の後の教室では、家族や支えてくれた方たちへ今までの感謝の言葉を伝える姿を見ることができ、感慨深いひと時でした。またその後、友達と一緒に中学校でお世話になった先生に会いに行く姿を見た時に、中高一貫教育校で良かったと改めて実感しました。また、長女は3年前の中学3年生の時に海外語学研修に参加し、視野が広がり逞しく成長したと思います。二女も今年3年生となり、慣れ親しんだ環境で先取り学習をすることで、高校へもスムーズに進級していけると期待しております。

県立川島中高の6年間では、生徒の個性が輝き、友や恩師と出会い、様々な学習や体験を通して成長し、かけがえのない時間を過ごすことができます。コロナ禍で変化する時代に対応しつつ、今ある日常に感謝し、自分のやりたいことや夢を見つけ実現していった欲しいと思います。



県中に来て本当によかったよ

1年生の声より

- 6年生の時オープンスクールに参加し、校舎を見学したり、授業を見たりしました。そして、「この学校に入りたい」と強く思いました。受験し、合格通知が来るまで、僕はドキドキしていました。「受かるかなあ」と、1週間ずっと口癖のように言っていました。そして、合格通知が来たとき、僕は泣いてしまうほどうれしかったです。初めて学校に行ったときは緊張しました。でも、今はみんなと仲良くなってとても楽しいです。

- 少しの不安と希望を胸に、私は県立川島中学校に入学しました。最初の不安がうそだったかのように、毎日とても楽しいです。授業はわかりやすく、多くの知識を得られるのでおもしろいです。部活動では、一生懸命取り組み、良い汗を流しています。友達もつくることのできるか心配でしたが、学級で一緒に活動するうちにできました。本当にこの学校に来て良かったです。合格通知をもらった時の気持ちは一生忘れられません。

- 入学してやはり初めは色々なことがわからず不安でした。でも先生たちは、一つひとつ丁寧に教えてくださいました。また悪いところはしっかり叱って、良いところは色々な場面でほめてくれます。一人ひとりに親身になって関わってくれ、自分自身でも気づかなかった長所をたくさん見つけて伝えてくださいます。毎日がとても楽しく充実しています。県立川島中学に来たことは良い選択でした。私は、かけがえのない6年間で謳歌します。

- 中学生になって、きちんと話を聴くことができるようになりました。また、朝と夜に勉強するようになり、家族にほめてもらえるようになりました。セミナーテストも90点以上を取って表彰され、勉強の成果が出てとてもうれしかったです。また、期末テスト1週間前になると、「質問タイム」があります。授業や家庭学習でわからなかったところを詳しく教えてくれるので、もっとがんばろうという気持ちになります。

- 私は剣道部に入部しました。剣道部の良いところを2つ紹介します。1つめは先輩方がやさしいところです。ゴミ箱のあるところが混雑していて、私がゴミを捨てることができずにいると、高校の先輩が気づいて「捨てるよ」と言って代わりに捨ててくれました。入部当時わからないことがあると、中学の先輩が何でも教えてくれました。2つめは、礼儀正しいところです。先輩方は、人に優しく接するだけでなく、物も丁寧に扱いかっこいいです。

- 最初は友だちができるか心配でした。でも、学活の時間にした「新聞紙タワー」や「クエスチョンシャワー」などのエンカウンターで、いつの間にか友だちと話をして仲良くなっていました。1人でできないことも友だちと協力するとできることが増えていきました。そして教室にあふれさせたい言葉も増えています。私は、こんなに楽しみながら、自然とみんながふれあえる活動を考える先生はすごいと思います。

「糧」

徳島県立川島中学校 PTA会長 尾方 郁

新型コロナウイルスの影響により、新しい年度の始まりが臨時休業となりました。中でも、子供たちは与えられた課題に計画を立て、各々に考え、時間を有効に使うことができたのではないのでしょうか。

学校生活において、子供たちは活動の制限で当たり前のことが出来ない不便さを感じ、感染防止等のために沢山の行事が中止となったことへの不満の声はあるかと思います。しかし、そんな今だからこそ、日々の学校生活の時間を大切にしてほしいと思います。学校に通い友達や先生と会えること、勉強や部活動ができることを幸せと感じ、この経験を糧に、子供たちが成長し目標に向かって粘り強く取り組んでいった欲しいと思います。

このような情勢においても、PTA活動へのご理解を頂きありがとうございます。学校、家庭の繋がりを大切にし、子供たちが安全・安心に学校生活を送ることが親の願いです。子供たちが「楽しい」と思える学校生活を過ごすために、「楽（ラク）」をしない校長先生をはじめ、先生方と共に情報共有し尽力したいと思います。

皆様のPTA活動への積極的なご参加とご協力を宜しくお願い申し上げます。

中高一貫教育校ならではの取組

“先輩から学ぶ！”

3年生の保護者より

- 5年生（高校2年生）のお話を聞くことができました。「先輩から学ぶ」という、中高一貫教育校ならではの授業で、5年生の先輩方がまさに今、自身が取り組んでいる勉強法や部活動との両立、困難に直面した時の対処法等について中学生とその保護者に語ってくれました。先輩方の生の声は大変興味深い内容で、後輩たちに語る姿はとても真摯で温かく好感を持ちました。また今回は、グループ毎に中学生が直接対話できる時間が設けられ、日頃から不安に感じていること、疑問に思っていることをぶつけ、教える請うことで安心感を得たようです。この素晴らしい機会に恵まれたことを踏まえ、更に目標に向かって進んでくれることを期待しています。

- 中高一貫教育校であることで、高校生と一緒に活動する機会があり、高校生を身近に感じられ、高校への移行がし易くて良いと思っています。そして、勉強を頑張る県中学生にとって、良い行事だと思うのが、「先輩から学ぶ」です。



成長する子供たちへ

心も体もすこやかに

2年生の保護者より

- 去年8月。現2年生は神戸防災研修として、人と防災未来センターと野島断層の見学に行きました。息子は半分遠足気分でしたが、展示されている地震で崩れた家や崩壊した橋の模型、大きくずれた断層を見た時は、正直息が詰まり、阪神淡路大震災の被害の大きさや犠牲者のことを思うと心がとても痛んだとのことでした。

その後、11月に県立川島中学校で実施された地域防災避難訓練では、バケツリレーや避難所開設、心肺蘇生法等の訓練を行ったようです。日常生活では、あまり縁が無いので、最初は戸惑いましたが、万が一のことを考えて真剣に訓練をしたと言っていました。

災害は、いつ、どんな形で発生するかわからないので、県立川島中学校で

2年生の時に、5年生との特別授業があり、先輩方の勉強の量や学習方法、日々の生活の様子や目標など、貴重な話を聞くことができました。先輩方の頑張っている様子を知って、子供にとって、将来の夢や勉強への取り組み方について考える良い機会になったようです。川島高校へ進学後、先輩方の話を励みに自分の目標に向かって頑張り、次の県中学生に繋いでいけると素敵だと思います。

- 娘は前々から先輩への質問を考え、授業を楽しみにしていました。下級生の前で将来の夢を語ってくれた先輩たちは、堂々として自信に満ちた表情で、充実した高校生活を送ることができているのだと思いました。

娘は部活動をしているので、勉強とどちらを優先したらよいのかという質問をしたそうです。部活動では、言葉づかいが丁寧になることや、仲間意識ができることなど、勉強と両立して活動する大切さがわかり、安心していました。

県立川島中高の生徒は、つねに向上心を持ち、クラスも団結し、互いに切磋琢磨して日々の生活に励んでいるように感じます。

コロナ禍で、辛いことや不安も多いと思いますが、必ず乗り越え、夢を叶えてくれると信じています。

して頂いた今回の研修と訓練を通して、子供たちが自分の命を守る行動をとることができればと願います。

- 中学校を選ぶにあたり、木造の校舎と生徒たちの明るい挨拶に好印象を抱き、先生方との信頼関係を感じ取られる県立川島中学校に決めました。

学校生活ではテニス部に所属して体力も付き、スポーツの楽しさを実感しています。「忌部の郷めぐりオリエンテーション」では、クラスメイトと一緒に長距離を歩くことで、仲間との結束が強まったと感じたようです。YMCAでの「自然体験学習」では、自然を体感し、すっきりとした表情で帰ってきたのがとても印象的でした。

勉学では、月1回ペースの試験と毎週末にある「週末課題」を前に、頭を抱えながらも一生懸命に向かう姿を頼もしく見えています。

県立川島中学校には、たくさんの体験活動があり、その度に自分で考え、自分の考えを発信していく機会があると感じます。10代の多感な時期を過ごす環境を選ぶにあたり、県立川島中学校という選択肢があったことは幸運でした。これからも県立川島中学校で、子供たちが活躍することがとても楽しみです。

9期生から後輩へ

「しっかりとサポートと仲間の存在」

徳島大学 総合科学部 社会総合科学科



- 振り返ってみると県立川島中学校で過ごした時間が今の自分を作っていると思います。県立川島中学校ではしっかりと学習支援が行われており、特にテスト期間中には生徒たちが気軽に質問できるように先生が放課後まで残って指導してくれました。そして中学3年生の時に高校1年生の数学の内容を学習することができるカリキュラムがあり、他校の生徒より一歩リードできるとともに余裕をもって高校で学習に取り組むことができます。

また県立川島中学校での行事や部活動では、中高問わず交流できるため中学生の時に高校生の学校生活に触れることができるなどたくさんのメリットがあります。また中学高校を共に過ごす仲間はかけがえのない存在となります。自分が高校生の時に厳しい大学受験を乗り越えられたのも6年間共に過ごした仲間がいたからこそだと実感しています。

県立川島中学校ではしっかりとサポートのもと、安心して学習することができ、そのため全力で部活動や課外活動に取り組めます。皆さんも県立川島中学校で中学校生活を思いっきり満喫してください。

「川島中高での6年間」

香川県立保健医療大学 保健医療学部 看護学科

- この春高校を卒業した私にとって、仲間とともに同じ環境の中で学び続けられた6年間はとても充実していました。もちろん、楽しいこと、嬉しいことばかりではありませんでしたが、何かあった時は友人や先生方がいつも見守ってくれました。何より高校生活を送る中で中学校の先生の姿を見れば挨拶し、よく話をしたものです。

川島中高には中高合同で活動している部活動や、中高祭などの行事がたくさんあります。これは、中学1年生から高校3年生までの6学年がともに学んでいる川島中高だからこそ経験できることだと思います。川島中高では、他の学校では経験できないことがたくさん待っています。そして、その経験は必ずあなたの宝物になると思います。みなさんの学校生活が世界に1つだけのかげがえのないものになることを願っています。

編集後記

臨時休業になったり、子供たちが楽しみにしていた行事が実施できなかったりと、例年とは違い不安いっぱいの中でスタートした「絆」の作成でした。しかし、各学年の委員の方や先生方が意見や助け船をたくさん出してくださいました。また、和気藹々とした和やかな雰囲気の中で作業を進めることもできました。集められた原稿や写真には、コロナ禍であっても、一生懸命、学校生活を楽しんでいる子供たちの姿が現れています。きっと、これから県中学生になる子供たちにも、それは伝わると思います。この先どんな困難なことがあっても、子供と先生と保護者との「絆」で乗り越えていくことができると信じています。ご協力、本当にありがとうございました。

企画・広報委員長 林 三恵子



笑顔で通える学校

1年生の保護者より

- 友人に誘われて、小5の息子と一緒に文化祭に参加させていただきました。友人の娘さんが県立川島中学校から入学した4年生だったこともあり、学校生活についていろいろ話を聞かせてもらいました。帰りに息子が「川島中学校を受検してみようかな」と言いました。その後も気持ちは揺らぐことなく自分で決めた道に進むため、それまで以上に勉強に励み、無事合格することができました。自分で進む道を切り開いたということは、息子の自信につながったと思いますし、人生の大きな一歩となったと思います。

入学後は多くの友達もでき、勉強に部活動に充実した生活を送っています。これから多くの経験を積み立派に成長してほしいです。

- 県立川島中学校を知ったきっかけは、小学校で配布された案内でした。写っている生徒のみなさんの雰囲気が明るく真面目そうな印象でした。それから、娘と話をし、オープンスクールに参加しました。校内に『四十二のいのち』という題が書かれた言葉が掲示されており、命の誕生の素晴らしさと未来への明るい光を感じる文章に感動しました。このような言葉を心で感じていらっしゃる先生方に教えていただけたら幸せだろうなと思いました。

通学は、家から遠く、通えるのだろうかと心配していましたが、春休みから生活リズムを整えて入学に臨み、今は、毎日不安なく通うことができます。友達もできて、部活動も楽しみながら充実した学校生活を過ごしています。教科書を配布して頂いた時には、教科書がなぜ無償化になったのかという内容のプリントも頂き、勉強だけでなく、普段気づきにくい社会の仕組みも学ぶことができて感謝しています。先生方にも恵まれて、授業も楽しいそうです。小学校のときに見た案内がきっかけで、県立川島中学校を知り、通うことができて本当によかったです。



- 地元の小学校はずっと1クラスで、クラス替えもなく、娘は狭い世界で多少息苦しそうでした。県立川島中学校は、いろいろな地域の子どもたちが集まってきています。娘は汽車通学をしていますが、通学時の情報交換をはじめ、他の地域の事情などを見聞きし行動できるようになってきました。そんな様子を見て、娘の世界はとても広がっていていると感じています。通学時には、小学校時代の友達に会うようで、そこで地元中学校の情報も聞いたりしているようです。そのおかげか、まったく地元と疎遠になったということもなく、その点は意外でした。そして、娘からのいろいろな情報を毎日聞かせてもらえることは私の楽しみでもあります。

また、県立川島中学校は規律に厳しいと思うところもありますが、厳しいだけではなくあたたかく見守ってくれています。その点も学校に通わせていて安心できる点です。今、娘にその実感はないと思いますが、今後成長していったときに先生方が見守ってくれていることを感じてくれたらと思います。



切磋琢磨した6年間

卒業生の保護者より

娘が県立川島中学校を受検しようと決めたのは、小学6年生の秋頃でした。地元の中学校に行くものだと思っていたので、私の方が慌てました。受検には合格したものの、勉強についていけるのか心配でしたが、先生方が親身になって教えてくださり、部活動にも参加しながら無事に過ごすことができました。中高一貫校で、娘にとって高校受検がなく、6年間という時間の枠の中で学習できたことは、大きなメリットでした。そして、文化祭や体育祭で中学生と高校生と一緒に参加できたこともとても良い思い出となりました。高校生になり、早朝や夕方の補習・土曜日のサタデーサポートに参加し、熱心に教えていただいたことはとてもありがたかったです。6年生になり、受検に向けて毎日遅くまで机に向かっています。勉強に対する姿勢は、先生方のご指導のもとクラスメイトと切磋琢磨して身についたものだと感じています。県立川島中学校で学ぶことができた本当によかったです。コロナ禍ではありますが、夢や希望に向かい、たくましく前進してほしいと思います。

いいところがたくさんある県中だよ

1年生の声より

- 私は、県立川島中学校に入学して、「勉強をがんばろう」「新しい友達と仲良くできるかな」などと、いろいろな期待や不安な気持ちを抱いて入学しました。でも、入学してからたくさんの仲間や友達ができ、勉強でわからないところがあると、仲間や先生がわかりやすく教えてくれて、毎日が充実しています。部活動でも先輩方が優しく色々なことを教えてくれるのでとても楽しいです。

- 県立川島中学校は、みんなが仲良く協力できる学校です。先生や先輩もとてもやさしい人ばかりです。私はこの学校の合格通知をもらったとき、とてもうれしい気持ちになりました。春からの新しい生活に不安もありましたが、周りの人たちがとても親切で安心できました。今教室の中でみんな楽しく過ごしています。部活動では、先輩方が優しくしてくださり、色々なことが学べます。この学校に来て、本当に良かったです。

- 私は、小学校6年生の時に授業見学に参加しました。兄が県立川島中学校に通っていたこともあり、私もどうしようか迷っていましたが、授業の様子や校舎を見ることができ、県立川島中学校に入学したいと思うようになりました。小学校ではやらないような内容の勉強をしたり、作文を書く練習をしたりしました。受検勉強は色々大変でしたが、生まれて初めて合格通知をもらった時は、とても感動しました。県立川島中学校では、友達がたくさんでき毎日とても充実して楽しいです。

- 私が5年生のとき、兄と一緒にオープンスクールに来て、この学校の先輩を見たとき、明るくて楽しそうな印象をもちました。学校内ですれちがったときなども、明るくあいさつをしてくれてうれしかったです。実際に入学してみると、同じクラスの友達もおもしろい人が多くて、授業も楽しく受けています。仲良くなった友達と帰ったり、部活動の見学に行ったりしました。すごく楽しくて、毎日学校に来るのが楽しみです。

- 僕は、県立川島中学校に入学し野球部に入りました。中学校の野球は、小学校の野球の練習とは違って、時間も長いしとてもきつい練習になったと思います。でも、やさしい先輩たちがよく声をかけてくれるので、苦しい練習を乗り越えて楽しく練習ができています。僕も先輩を見習って、後輩が入ってきたら優しくできる先輩になりたいです。そして、野球ばかりでなく、苦手な勉強もがんばりたいです。

- 僕は、この県立川島中学校と他の中学校を比べてみて「違うな」と思ったことは、漢検・英検・数検に力を入れていることです。このような検定を積極的に受検できることで、自分の目標を立てることが出来ます。そして、その目標が達成できたとき、達成感を感じるだけでなく、もう一つの級にチャレンジしようという新しい目標を立てることが出来ます。そうやって向上心をもって取り組むことは、大学などへの進学にも有利になると思います。これは僕が感じた、他の中学校と比べて県立川島中学校のすぐれた点だと思います。

コロナ禍での成長

徳島県立川島中学校 PTA 会長 佐藤さゆり

昨年度から引き続き、コロナウイルス感染防止に努めながらも、少しずつ日常を取り戻しつつあるように思います。

学校生活においても、タブレット端末の導入により、今までは先生の話聞くことが多かった授業も、タブレットの使用で、自分の意見や考えを表現でき、グループ活動での意見交換がやりやすくなったという生徒の反応があるようです。コロナ禍でも、ネガティブなことばかりではなく、生徒一人ひとりの成長が見られ嬉しく思います。

子どもたちの学校生活を充実させるために、安心・安全そして笑顔が溢れる環境を整えられるよう、今後ともPTA活動へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

コロナ禍で成長し合えた仲間たち

3年生の保護者より

- 息子はサッカー部に所属しています。主な活動は、体力作りのためのトレーニングや他校との合同練習などです。部活動に励む息子を見ていて思うことは、顧問の先生をはじめとするチームの仲がとていいことです。それは、コロナ禍で練習試合や大会が減るなか、限られた一つの試合を通じチームが丸となり、力を合わせ頑張ったことで、仲間の絆が深まったからだと思います。部活動を通じて培った精神力と思いやり、努力を積み重ねていくことを忘れずに今後の人生にも生かして欲しいです。

また、中高一貫校だからこそ、高校サッカー部のプレーを近くで観ることができ、カッコイイ先輩の活躍を参考にすることができます。県立川島中学校で学び明るく頼もしく成長した息子をこれからも応援していきたいです。

- 今年度に入り、娘の所属する音楽部の練習が戻ってきました。昨年度は、新型コロナウイルスの影響で定期演奏会もなくなり、室内で練習するため場所や換気など様々な制限から、全体練習も出来ませんでした。そのため、部活動の楽しみを味わえずにいることにストレスを感じているようでした。しかし、今年度は感染症対策をしっかり行いながら、夏のコンクールに向けて、充実した活動ができています。目の前に目標ができ、それに向かって一生懸命頑張ろうとする子どもの姿をみて、親として心から応援していきたいと思っています。最初は、久しぶりの部活動に疲れている様子もあり、勉強の方がおそろになるのではと心配していましたが、逆に限られた時間の中で、集中して課題に取り組む姿がみられ、頼もしく感じました。高校生と一緒に活動していることでより高い目標に向かって活動していけるところにもすばらしさを感じます。

今年は、文化祭や音楽祭など、音楽部の活躍できる場があると聞いています。感染状況により、それも予定通りにいかないかもしれませんが、子どもたちの頑張りが披露できる場がなくなるらないよう祈っています。

- 5月より学習者用タブレット端末による学習が開始されました。学習用としてタブレット端末を使用することで、たくさんの情報を知ること、自分が必要な情報だけを選択すること、そしてそれを活用してまとめを行い処理する力を養うことに繋がると期待をしています。

県立川島中学校では、3年生で沖縄県への修学旅行が計画されており、学習者用タブレット端末を活用し、調べ学習に取り組み、息子も担当になった箇所をまとめていました。最初は「ここに写真を貼り付けたいがズレる」「文章を打つのが遅い」など悩みながらも、時間をかけて仕上げていました。しかし、数日後の課題学習では、教えてもらったことをすぐに家庭で復習し、アツという間にHRのフォルダへ上書きをしていました。きっと一度に多くの生徒の速度に合わせてタブレット端末の使用方法を指導することは難しいことと思いますが、先生方の指導力と生徒たちの飲み込みのよさに驚かされました。

新型コロナウイルス感染症により失われたことも多々あり、我慢を強いられる生活に窮屈さもありますが、こうした活動を通して生徒たちが考えて行動する力を伸ばしていくことができる環境は大変貴重だと思いました。

生徒たちが楽しみに待つ沖縄県への修学旅行がどうか実現できるように願っております。

- コロナ禍での学校生活も、もう1年半。多くの行事や部活動が中止となったり、休日に友達や家族と外へ遊びに行くこともなくなったりと、不便や我慢を強いられる生活が続いています。

今年度は休校もなく、行事はリモートや代替案で行われており、コロナ禍でなければ体験できなかったことを学校生活の中で経験し、家で楽しそうに話してくれることが増えました。

先日市の総体壮行式でも、一人ひとりカメラの前で発表し、人前で発表するのが得意ではない息子にとって、良い経験となりました。放課後や休日は、友達と電話で会話しながら勉強を教え合ったりと、自粛生活でも友達のおかげで全く寂しくないようです。

何気ない日常を守ってくれる先生方や周りの大人たちへの感謝、自分の行動の責任や思いやり、そして、友人や仲間の支え。コロナ禍で多くの事が奪われましたが、その分、多くの事を学びとっていると実感しています。



成長しているよ！学校に感謝

2年生の保護者より

- 「県立川島中学校に行きたい」と受検し、入学しました。初めの頃は、重いカバンを背負いふらつく娘を見て、大丈夫だろうか心配していました。

そんな娘も中学2年生となり、心身ともに成長し体力も付いてきました。毎日、元気に学校に通ってくれていることに喜びを感じます。今もなお続く新型コロナウイルスの影響で行事などが中止となり、思うように学校生活を送れないこともありますが、そのような中でも日々の楽しみを見つけているようです。例えば、絵を描くことが好きな娘は、美術の授業で自画像を描くのが楽しかったことや、上手に描けていると褒めてもらい自信に繋がったこと、そして、体育の授業では、ダンスの振付をグループのみんなと相談し合ったことで、親睦が深まったことなどを話してくれます。

これからも、県立川島中学校だからできる経験、10代の今だからできる挑戦を沢山して欲しいと願っています。

- 地元の中学校へ進まず、心機一転、県立川島中学校へ入学した息子。学校生活では、週に1回のセミナーテストや毎週末にある週末課題に四苦八苦しながらも、頑張る姿が日々成長し頼もしく感じられるようになりました。また、英検についても学校で行う英検対策授業が息子にとって強みとなり、中学3年生までに3級合格という目標の後押しになっています。

部活動では、高校生と一緒に練習ができる中高一貫ならではの経験で、先輩・後輩という上下関係もしっかり身につきました。しかし、文武両道は思ったより難しく、通学距離も遠いため、「部活動をやめたい」と根をあげることもありました。顧問の先生にはメンタル面や体力面など本当にいろいろご指導・ご助力で支えていただき心より感謝しております。

まだまだ未熟な息子ですが、日々是前進でさらに大きく成長できることを願っています。

- 県立川島中学校に通うようになって、時間の使い方がうまくなり、人間的にも大きく成長したと感じています。娘は毎朝6時半に家を出て、約1時間をかけて通学しています。1年生の前半までは途中の駅まで車で送迎していましたが、後半からは現在の通学スタイルになっています。

起床時間が早いので、睡眠時間を確保するために早寝の習慣ができ、車の中での隙間時間を読書にあてたり、宿題を手際よく終わらせる工夫をしたりしています。

また、規則正しい生活のおかげか、体調を崩すこともなく、これまで1日も休まず登校することができています。

学校生活に関しては、当初は知り合いも全くおらず少し不安を感じていたようですが、ひと月もかからず馴染めたようです。クラスの同級生をはじめ、先生方に感謝です。

あとは、大人になってから、「中学校で勉強をやり過ぎて損をした」という話を聞いたことはないの、頑張っしてほしいものです。

- 県立川島中学校では「至誠ノート」というノートを使います。その目的は「自ら学び、考え、行動できる自己管理能力を高めよう!」と1ページ目に太字で書いてあります。このノートは、自ら目標を決めて、計画を立て、毎日の生活を時間軸に記録し、担任の先生に提出、1週間ごとに振り返り、工夫・改善を加えるという「より良い習慣」の定着を図るものです。

生真面目な娘は入学してすぐに、そのルーティンにきっちりハマりました。「勉強の合間に少し体を動かすとその後の勉強の集中力が高まる」という自分の癖に気付くなど、自分取扱説明書の上書きが、どんどん進んでいます。こういうことに人生の早いうちに気付けば気付くほど、改善がなされ、バージョンアップが進んでいると、わが娘ながら感心して見えています。

勉強にスポーツに、食欲に楽しみながら成長する娘を見ると、生涯の宝物と言える、良い習慣を定着させてくださったことに感謝です。



10期生から後輩へ

「最高の環境で強みをみつける」

高知県立大学 社会福祉学部 社会福祉学科



- 私にとって川島中高の6年間は、何物にも代えることができないとても濃いものでした。6年間はあっという間でしたが、そのなかで様々な経験をすることができました。私は大学を学校推薦型選抜という方法で受験しました。その際、今まで行ってきた課外活動について語りました。自ら進んでボランティア活動や課外活動に取り組むという姿勢を生み出してくれたのは、県立川島中学校です。県立川島中学校での活動のおかげで、私は課外活動のことを武器にし、大学に合格することができました。

そして、人間性の土台を作ってくれたのも県立川島中学校です。いろいろな地域から受検を経て集まった個性豊かな友人たちと共に生活することで、互いの違いや良さを理解し合っていくことができました。

皆さんもこのような充実した環境で勉学に励み、自分自身の強みを見いだしてみてください。

「川島中高で過ごした6年」

徳島大学 理工学部 理工学科 情報光システムコース・情報系

- 川島中高での6年間を振り返ってみると、心強い仲間とともに学ぶことができたかけがえのないものでした。中高一貫校だからできる数学の先取り授業のおかげでCOVID-19による長期の休校期間があっても、他校の生徒より余裕をもって授業の遅れを取り返すことができ、自分のしたい勉強に集中することができました。また、勉強面だけではなく川島中高には中学1年生から高校3年生までの6学年合同で行われる行事もたくさんあります。文化祭は規模が大きく、模擬店・催しが多いので、楽しい思い出をたくさん作ることができました。

学校生活の思い出の中には、行動に移せず後悔したこともあります。その時その時の自分の意思を尊重し、臆することなく何事にも挑戦してみてください。挑戦した経験が必ずあなたを大きく成長させます。みなさんの学校生活が楽しく、実りあるものになることを願っています。

編集後記

徳島県立川島中学校PTA広報誌「絆」は今年度15回目の発行を迎えることができました。作成にあたり、卒業生の皆様には温かいお言葉を多く寄せていただき、また各学年の委員の方々には話し合い活動や原稿作成等にご協力いただきました。誠にありがとうございました。入学前に今までの「絆」を読ませていただき、県中生の自分の考えをしっかりと持つことやまじめに学習に向き合う姿勢に本当に心を動かされました。そのような「絆」が今年もできあがったと感じております。今後ますますこの「絆」が広がりますよう、心より願っております。ありがとうございました。

企画・広報委員長 栗島一明



夢に向かってワクワクする毎日

1年生の保護者より

- 6年生になってから「県立川島中学校に行きたい」と、息子がよく話すようになりました。兄が県立川島中学校に通っていたこともあり、参観日や文化祭など家族で参加していたので、以前から学校の雰囲気はよく知っていました。

まずは、オープンスクールに参加し、社会の体験授業を受けてみることにしました。そして、その日の帰り道、「僕、県立川島中学校を受検する!」と彼から強い決意表明がありました。県立川島中学校に通っていたキラキラした兄の姿に自分を重ねたのかもしれません。彼の中では、新しい環境への不安よりも大きな希望の方が大きかったようです。

入学してからは、毎日楽しそうに学校のことを話してくれるようになり、家族の会話や笑いも増えました。幼稚園のころから続けている剣道を部活動でも続けることができ、顧問の先生や素晴らしい環境のもとで、彼なりによく頑張っています。

ぜひこれからも、夢に向かってかけがえのない仲間とともに、県立川島中学校でワクワクした毎日を過ごしてほしいと切に願います。

- 私の娘には夢があります。今もその夢に向かってたくさんの課題をこなし、毎日クタクタになりながらも日々努力しています。

受検をする前から、オープンスクールに参加して課題の量や学習時間の多さなど県立川島中学校について、たくさん調べながら娘と受検するかどうかが話し合いました。同じ学校から通うクラスメイトもいない、初めての汽車通学と、親としては不安もたくさんありました。私なら大好きな友だちと離れて一人違う環境で過ごすなんて不安でいっぱいだと思



います。けれど、自分の夢のために受検すると決めた娘は入学して今、先生方に助けていただきながら毎日一生懸命中学校生活を送っています。

県立川島中学校に通い出して半年。まだまだこれから大変なこともあると思いますが、先生方やクラスメイトに助けていただきながらどんどん夢に向かって成長していったほしいと思います。

- 「様々な人と出会ってたくさんの経験をしたい」と娘が言ったとき、いろいろな地域から子どもたちが集まり、高校生と一緒に活動する機会が多くある県立川島中学校しかないと思いました。私自身、川島高校の卒業生であり、在学中に中高一貫校となりました。そこで学んだことは今でも人生の宝物となっています。だから娘にも県立川島中学校の受検を勧めました。

同じ小学校から入学した子は娘を合わせて2人しかおらず、通学も家から遠く通えるのだろうか、と最初は心配していましたが、入学してからは「毎日が楽しく明日が待てない」と娘は言っています。新しい友だちもでき、その友だちに誘われ、バスケットボール部に入りました。そこでは高校生とも仲良くなり、バスケットボールのことだけでなく、勉強も教えてもらっているようです。毎日元気よく「行きます」と家を出る娘の後ろ姿、保護者にとってこれほど幸せなことはありません。これからも様々な人と出会い、多くの経験を積んでほしいと思います。



県中に来て本当によかったよ

1年生の声より

- 入学して、最初はクラスの人々と仲良くできるか心配でした。けれど、今は新しく友だちがたくさんでき、毎日が楽しいです。私は音楽部とSDGs部に入りました。どちらの部活動でも、先輩や顧問の先生がやさしく指導してくださるので、入ってよかったなと思っています。最初は不安が多いですが、すぐに慣れ、充実した毎日を送ることができると思います。私は、県立川島中学校に入学できて本当によかったなと思っています。

- 僕がとくに紹介したい県立川島中学校のよさは、とても勉強がしやすい環境だということです。先生は一人ひとりが理解できるように丁寧に授業をしてくれます。また、テスト1週間前は質問タイムという時間が設けられます。これは、授業でわからなかったことを先生に質問することができる時間です。他にもテストに向けて自分で計画を立てて、この質問タイムで自習をすることができ、とても役立っています。勉強を頑張りたい人はぜひ県立川島中学校に来てください。中学校で待っています。

- 県立川島中学校に入学してから、小学生の頃と比べてどんどん勉強は難しくなったけれど、各教科の先生方がわかりやすく教え、サポートしてくれます。また、小学校の頃にはなかった電子黒板を使っていて、先生が直接文字や記号などを書き込んで説明してくれるので、とてもわかりやすいです。部活動では、入部前に体験をすることができ、様々な部活動をみて選ぶことができます。県立川島中学校に入学してよかったです。

- オープンスクールに行ったときに、説明で「この中学校は数学にとくに力を入れています」と言っていました。数学の体験授業では、電子黒板やおりがみを使ってわかりやすく授業してくれました。私は数学が得意ではないので、クラスの人々に置いていかれないように、一生懸命頑張っています。わからないことがあると、先生がやさしく丁寧に教えてくれます。県立川島中学校に入って、数学がちょっと好きになりました。

- 私は小学校6年生のときに、県立川島中学校の様子を見学しました。生徒一人ひとりがいきいきと授業を受けているのを見て、驚きました。先生の授業を真剣に聞いている中学生は、なんだか楽しそうで、私にはかがやいて見えました。「私もこんなふうになりたい」と思い、この学校に入学しました。友だちも先生方もやさしくて、毎日が楽しいです。ぜひ、この県立川島中学校に入学して、かがやく学校生活を送ってください。

「成長」 徳島県立川島中学校 PTA会長 乗島まゆみ

まだまだ感染防止の観点から様々な制約の中、子どもたちなりに学校生活を楽しみ、日常の生活を取り戻しつつあります。コロナ禍で家族・学校・友だち・生活など様々な面について、ご苦労や考えさせられることがたくさんあったのではないのでしょうか。その中でも、子どもたちが力強く成長していく姿に、とても頼もしくうれしくもあります。

学校では安全な学校生活に向け、様々な対策や工夫・努力をしてくださった先生方のご苦労に心から感謝いたします。

皆様には、日頃PTA活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。子どもたちが、楽しく安全に学校生活が送れるよう、尽力・サポートしていきたいと思います。

本年度もご負担をおかけいたしますが、PTA活動にご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2年生の保護者より



3年生の保護者より

- 県立川島中学校では、テスト前に質問タイムという活動があります。わからない所を先生に質問して教えてもらったり、各自で勉強したいことをしたりする時間だそうです。勉強が苦手な息子が、最近珍しく、質問タイムの時間に勉強に集中できたと言っていました。クラスの子が勉強を教えてくれて、よく理解できたそうです。親から見ても3年生になり、だんだんと自主的に学習に取り組む姿をよく見かけられるようになりました。「〇〇するために勉強する」という気持ちを持ち始めた息子の変化に成長を感じました。また質問タイムに、自ら進んで息子に勉強をしてくれるクラスメイトがいることに、感動と感謝の気持ちでいっぱいです。
- 一般的には受検生になる学年ですが、本校では高校受検がない分、学習の進度が早いようです。息子にとっては大変だと思いますが、勉強する目的がもてたことや、クラスメイトのサポートでこれからも頑張ってくれそうな予感がします。がんばれ、息子!!



「川島中高での6年間」



徳島大学 医学部 保健学科検査技術科学専攻

- 私にとって、川島中高で過ごした時間はとてもかけがえのないものでした。6年間を通して、様々な経験をし、成長することができました。数学の先取り学習があるおかげで、余裕をもって勉強を進められ、しっかりとしたサポートのもとで安心して学習することができます。また、勉強だけでなく、行事や部活動も充実しており、楽しい思い出をたくさんつくることができます。川島中高では、中高生が合同で行う学校行事や部活動があり、これは6学年が共に学ぶ川島中高だからできる経験だと思います。中学生のうちから高校生活に触れることができるのもメリットの1つです。ほかに、ボランティアなどの課外活動にも積極的に取り組むことで、自らの強みにもなります。
- 川島中高は、自分の目標や夢を見つけ、実現するための力を身につけることができる環境が整っています。そして、様々な経験を通して成長することができます。
- 皆さんの学校生活がかけがえのないものになることを願っています。

「自分を見つける」

鳴門教育大学 学校教育学部英語科

- 私は、県立川島中学校で過ごすことができ、本当によかったと思っています。県立川島中学校に来たことによって、勉強するという習慣を身につけることができました。最終的には、テストで上位まで上がることができ、うれしかったのを覚えています。そして、先生のおかげで英語が好きになりました。その気持ちが今の私につながっています。
- また、私はバスケットボール部に所属していました。中高一貫校なので高校生と練習する機会がありました。試合前には相手になってくれたり、高校生が隣のコートで練習しているため、高校での部活動の雰囲気を見ることができたりしたので、これは県立川島中学校の魅力であると感じました。
- 県中生の皆さん、今しかできないことをやってください。人生一度きりです。その過程で自分のやりたいことを見つけてください。最後に、周りの人たちを大切にすることを忘れないでください。

編集後記

広報紙「絆」の作成は初めての経験であり、広報委員長として何から始めたらよいのかわからない状態で始まりました。学校から頂いた過去の「絆」を読ませていただきながら進めて参りましたが、この活動に携われたことを改めてうれしく思います。委員の皆様や先生方の和気あいあいとした雰囲気の中で、話し合いが進み様々な面で助けていただきありがとうございました。

子どもたちの明るく楽しそうな姿を見ていると、学校が楽しい場であることがわかります。これから先、不安なこともあるかもしれませんが、その時は友だちや先生方との絆で、乗り越えてほしいと思います。これからも、子どもたち、先生方そして保護者の方々の絆がより一層深まり、思い出に残る学校生活が送れることを願っております。皆様ご協力ありがとうございました。

企画・広報委員長 森 弘美